

昭和49年7月台風8号による集中豪雨

災害の記録

香川県小豆郡内海町

昭和49年7月台風8号による集中豪雨

災害の記録



7月6日午後11時すぎの庁舎前

東瀬戸内に大きな被害

台風8号 集中豪雨



長距離列車 山陽線は

内海で死者・不明27人
山津波

県下に最大の豪雨被害

山津波 人家ひととのみ

赤い奔流 豊島のツメ



の軒先まで土砂

参院選 さよう投票

豪雨 七夕選挙を急襲

音をたて迫る裏山

内海・橋地区

停電下

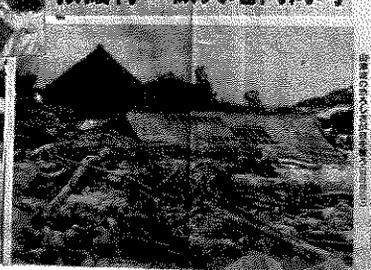
ツメ跡無残 瀬戸の島々

1時間にかけ崩れを誘発

小豆島

災害下 参院選開票進む

救援待つ被災地内海町



投票所が対策基地
職員も救助に出勤

「ドドッ」崩れ落ちる山

なき倒され無残な民家

投票前夜 逃げ遅れた島民小豆島

猛暑の中、悲しみを
愛児抱く母親の遺体
被災地、全町に広がる

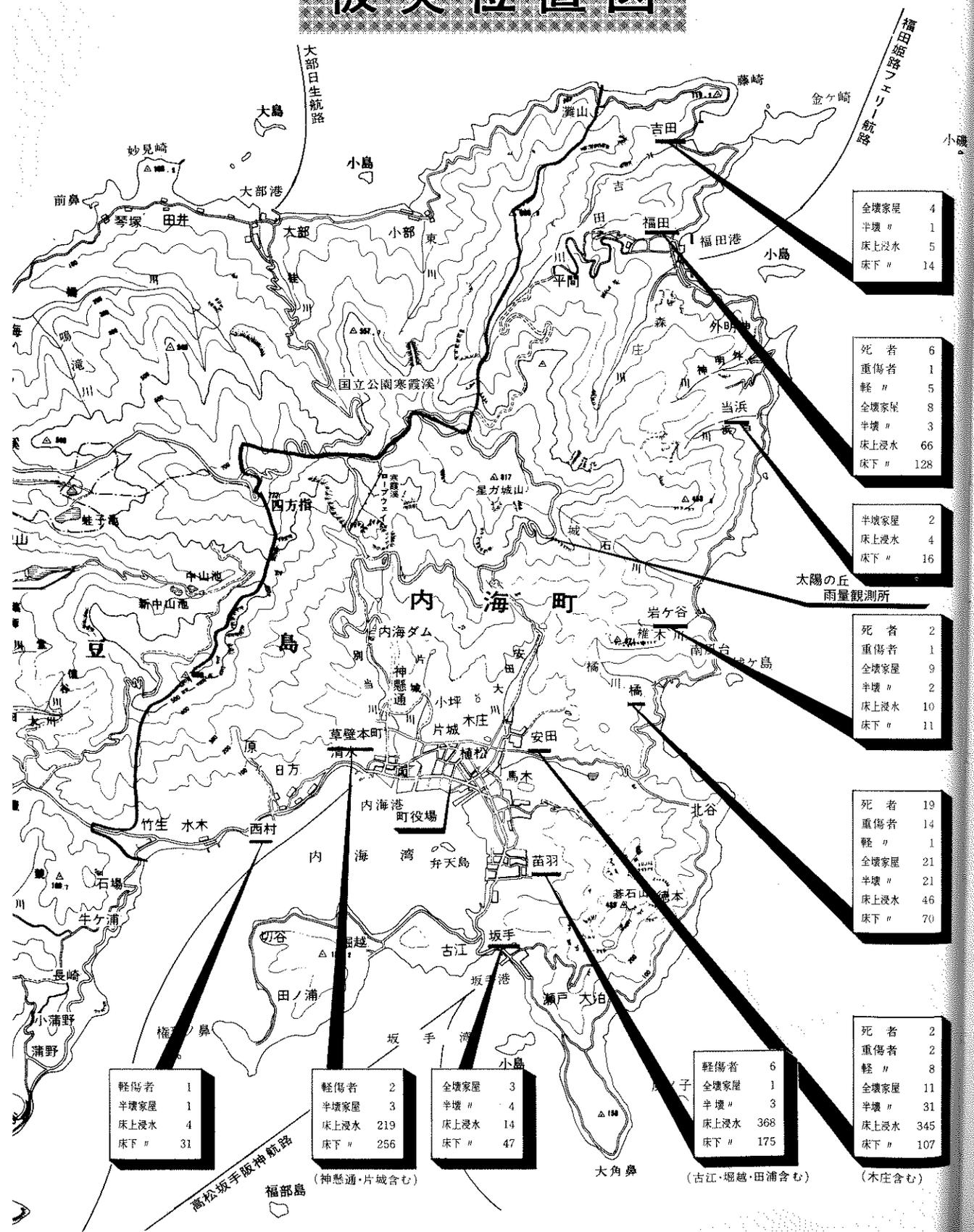
オリーブの里 一夜で絶望の島



暗ヤミ

内海町集中豪雨災害を報道する各新聞社の紙面

被災位置図



全壊家屋	4
半壊 "	1
床上浸水	5
床下 "	14

死者	6
重傷者	1
軽 "	5
全壊家屋	8
半壊 "	3
床上浸水	66
床下 "	128

半壊家屋	2
床上浸水	4
床下 "	16

太陽の丘
雨量観測所

死者	2
重傷者	1
全壊家屋	9
半壊 "	2
床上浸水	10
床下 "	11

死者	19
重傷者	14
軽 "	1
全壊家屋	21
半壊 "	21
床上浸水	46
床下 "	70

死者	2
重傷者	2
軽 "	8
全壊家屋	11
半壊 "	31
床上浸水	345
床下 "	107

軽傷者	1
半壊家屋	1
床上浸水	4
床下 "	31

軽傷者	2
半壊家屋	3
床上浸水	219
床下 "	256

全壊家屋	3
半壊 "	4
床上浸水	14
床下 "	47

軽傷者	6
全壊家屋	1
半壊 "	3
床上浸水	368
床下 "	175

(神懸通・片城含む)

(古江・堀越・田浦含む)

(木庄含む)

《ごあいさつ》

昨年の台風8号による集中豪雨は、一瞬にして29名もの尊い生命が奪われるという大惨事となり、香川県史上にいまだかつてない災害の記録をのこしました。

当時、住民は一時茫然自失の状態でありましたが、直ちに開始された陸上、海上自衛隊、警察機動隊、海上保安部、地元消防団等の救援活動と相次ぐ全国各地より寄せられた物心両面にわたる暖かいご支援は、全住民に深い感動と復興への活力を与えて下さいました。

また、国、県においても、時をうつつさず現地調査団を派遣され被害状況をつぶさに調査し、直ちに危険箇所には緊急砂防ダム、谷止工を構築する等、適切な応急対策により二次災害の防止に努めるとともに人心の安定を図られました。

今や災害の査定も順調におわり、目下町民の皆さん方のご協力により復旧工事に全力をあげて取り組んでおりますが、災害の犠牲になって亡くなられた方々並びに融資以外に殆んど救済の途がない個人災害を受けられた方々のことを考えますと、全く胸のつまる想いでいっぱいであります。

我国は台風を始め、地震、豪雨等世界でも有数の災害国といわれており、年々歳々何らかの災害が何らかの形で全国各地において絶えず起っております。このような頻発する災害は、国民生活を極度に脅かし、社会経済の発展に重大な影響を及ぼしております。

私達は、この大災害から学び得た尊い教訓をよくかみしめて、再び同じような災害を繰り返すことのないよう防備、防災対策を積極的に推進し、尊い人命の安全と郷土の保全に努めることを誓うとともに、町内外から寄せられた数々のご厚志に対し衷心から感謝を捧げるものであります。

最後に尊い犠牲者のご冥福と、ご遺族のご清栄を心からお祈り申し上げます。

昭和50年7月

内海町長 川北 四十二

目 次

内海町集中豪雨災害を報道する各新聞社の紙面 被災位置図 ごあいさつ 〈内海町長 川北 四十二〉	
内海町の概要	1
災害の原因	2
降雨量	2
地形と地質	5
災害発生の状況	6
7月6日小豆島消防署内海分署の記録より	6
悪夢のツメ跡（被害写真）	8
救援、捜索活動	16
関係機関の出動状況	20
死亡者名簿	21
合同告別式 〈安らかに二十九柱〉	22
二十九柱の遺影	23
弔 辞	25
炊き出し、給食	28
給食実績、炊き出し従業者数及び米穀類使用数	29
救援物資、義援金	30
義援金内訳	31
ありがとうございました 善意の贈りもの	32
被害の状況	40
人的被害、建物被害、土木被害、農林被害	40
商工水産被害、環境保健被害、文教施設被害	41
応 急 対 策	42
堆積土砂、ゴミ排除作業	42

し尿収集、防疫対策、給水活動	43
住宅対策、教育対策	45
町民相談室の開設、災害援護資金の貸付	46
町民税等の減免、議会調査団の日程等	46
災 害 救 助 費	47
表彰状、感謝状	48
復旧工事の状況	49
災害から教えられたもの	50
体 験 記	51
編 集 後 記	60

内海町の概要

内海町は瀬戸内海国立公園の中心で、オリーブの島、二十四の瞳の島、として広く全国民に知られた小豆島の東部に位置している。昭和26年4月、西村、草壁町、安田村、苗羽村および坂手村を合併し内海町が発足。その後昭和32年3月福田村を編入し現在に至っている。

内海町の主たる産業は、古い歴史をもつ醤油製造業と全国第1位の生産量を誇る水産物佃煮製造業が盛んで、生産額はあわせて100億円を超えている。これらの地場産業と共に、寒霞溪、オリーブ園、海水浴等、美しい自然に恵まれ、年間130万余人が訪れる観光の町として脚光を浴びている。

位 置 東経 134° 15′ 42″ ～ 143° 22′ 9″
北緯 34° 25′ 46″ ～ 34° 33′ 42″

面 積 61.55平方キロメートル
東西 10キロメートル 南北 14.7キロメートル

人 口 15,560人（男 7,273人 女 8,287人）
（50.1.1現在） 4,760世帯

地区別人口内訳

地区名	人口	世帯数
西 村	1,236	362
草壁本町	1,823	598
神 懸 通	1,112	345
片 城	899	263
木 庄	273	79
安 田	2,416	727
橘	803	234
岩 谷	180	58
当 浜	228	70
苗 羽	3,220	982
古 江	265	68
堀 越	162	56
田 浦	186	57
坂 手	1,056	337
福 田	1,500	465
吉 田	201	59



災 害 の 原 因

降雨量 365ミリ 年間雨量の約 $\frac{1}{4}$ が 1 日に

気 象 概 況

昭和49年6月26日マリアナ群島東方海上に発生した台風8号は、発達しながらゆっくり北西に進み、最盛期は7月5日朝沖縄西方約200kmの海上にあった頃である。

一方、6月29日以降西日本一帯を覆っていた梅雨前線は、毎日降ったり止んだりの典型的な梅雨模様になっていた。

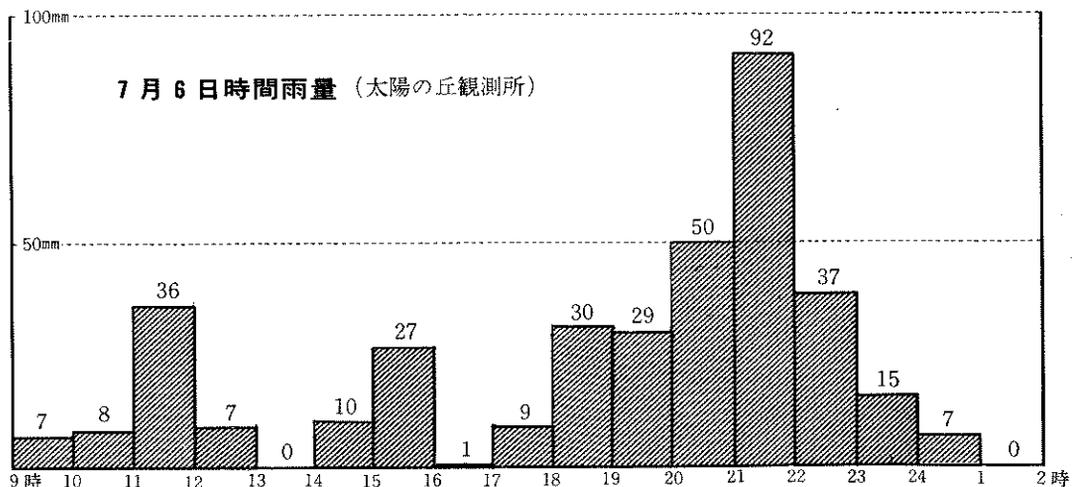
台風はその後、少しづつ衰えながら毎時20kmのゆっくりした速度で北北東に進み、福岡の西約200kmの海上に達した6日24時には、中心気圧970mb、最大風速30%の中型の並の台風となっていた。しかし、台風が九州西方海上をゆっくり北北東に進んだ6日は、朝から台風周辺の暖湿空気が梅雨前線を刺激し、四国地方は大雨となった。

日中は比較的全域に降っていた雨は夜になって局地的になり、特に、小豆島、東讃、徳島県東部では、数時間にわたって、毎時40ミリ～70ミリと、記録的な集中豪雨となった。

降 雨 量

降 雨 量 7月6日日界9時（6日9時～7日9時）

町 内 の 状 況		県 下 の 状 況	
観 測 所	降 雨 量 mm	観 測 所	降 雨 量 mm
太 陽 の 丘	3 6 5	土 庄	2 8
内 海 ダ ム	2 9 6	池 田	1 4 5
寒 霞 溪 道 路 公 団	3 5 2	高 松	6
岩 谷	3 2 1	多 度 津	2 0
福 田	3 3 8	引 田	2 6 4



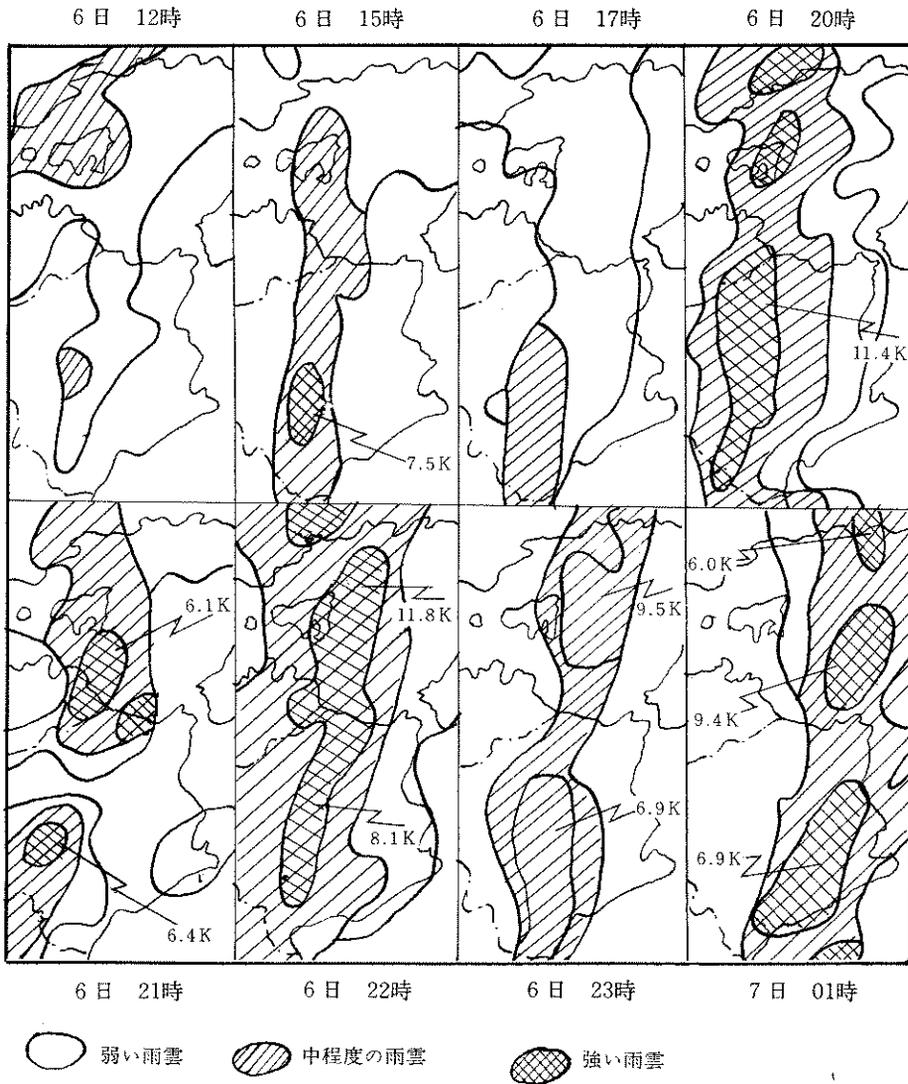
過去5ケ年の年間降雨量

(内海ダム観測による：単位mm)

年 度	44	45	46	47	48	平 均
年間降雨量	1,139.2	1,435.6	1,331.0	1,310.7	944.1	1,232.1

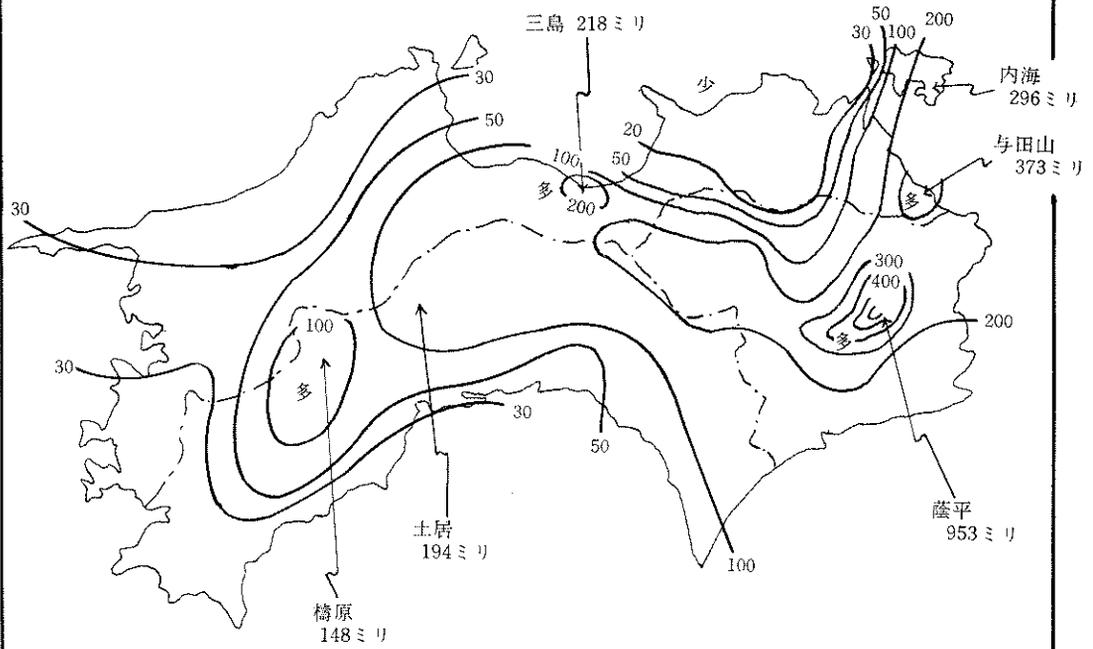
広島レーダーエコー分布図

(6日20時、7日22時は大阪レーダー)



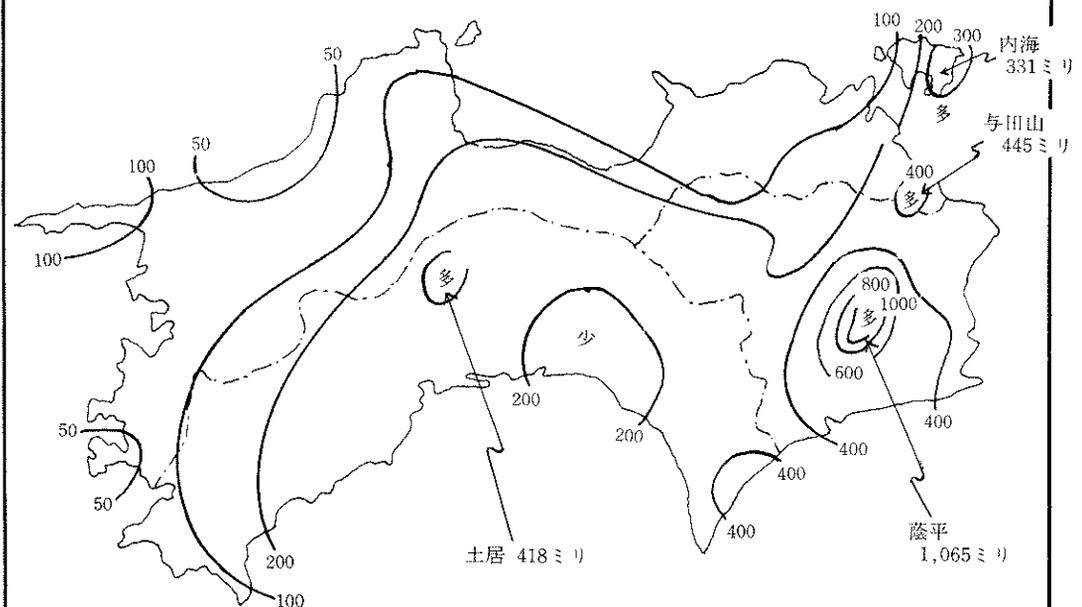
雨量分布図

昭和49年7月6日09時～7日09時



雨量分布図

昭和49年7月4日09時～7日09時



地形と地質が誘因に

地 形

内海町は、西を南北に連なる山嶺を境に土庄、池田両町と接し、南、北、東の三方は瀬戸内海に面しており、山林原野が約80%を占め、平坦地は主として南部に開けている。

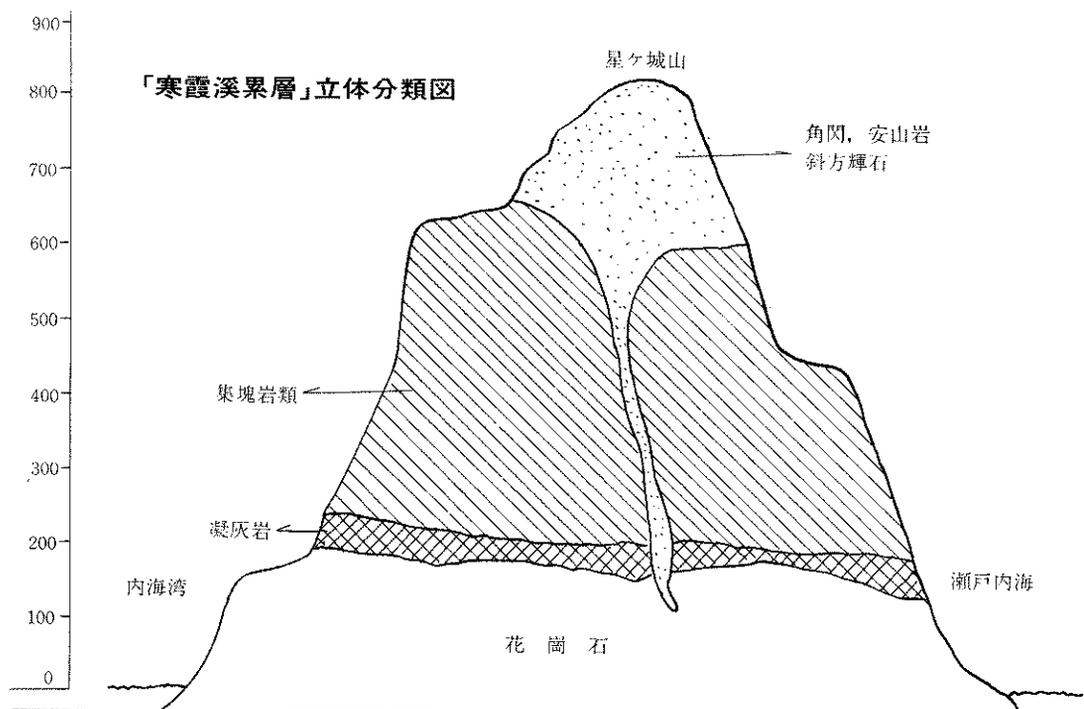
山崩れ被害の大きかった東部地区は、背後に標高100~400メートルの寒霞溪山系がそびえ、標高816メートルの星ヶ城山に連なり、島しょ部特有の急傾斜をなして海中に入り込み、この間を無数の小河川が谷間を縫って流れ、入江には小さな平坦地が点在しているにすぎない。

地 質

小豆島の山は、雨にもろく崩れやすかった。

文部省災害科学特別研究班の調査によると、小豆島は四国本土が老年期で平坦化しているのに対し、同じ老年期でも初期の段階で急傾斜地が特に多い。しかも、山の地質は表面から見て花こう岩が風化して土になった真砂土（5~8メートル）その下に風化岩、さらに新鮮岩からなっている。問題は表面の真砂土で、普通谷間などの溪流の最先端である“谷頭”付近の真砂土が水を含んで飽和状態となり、これが耐えられなくなって“泥流”を誘発する。泥流は落ちるにしたがって溪流、谷間の底、側面を削り取りながら土砂流となって、大変な勢いと土砂量を伴い流れ落ちる。

真砂土の崩れる限界は、傾斜が40度以上、1時間雨量で40ミリ、1日の雨量は100ミリといわれ今回の各所の崩壊は、1時間降雨量最高92ミリ、1日降雨量が300ミリを超える異常豪雨に加え、前記の島特有の地形、地質という危険体質が誘因になったものと見られている。



災害発生の状況

発生の日時 昭和49年7月6日19時から24時までの間

発生の場所 内海町全域

発生に至るまでの経過

午後から降り続いた雨は夜半から豪雨となり時間降雨量92ミリを記録、19時から24時にかけていっきよに増水し、河川の氾らんと満潮時が重なり、安田、苗羽地区では浸水家屋が続出した。

また、急傾斜地が多い東部海岸の橋、岩谷、福田、吉田地区では、鉄砲水となって土砂崩れを起し、瞬時に住家押し流し、橋地区での19名を始め、29名もの死者を生じた。

被害範囲は全町にわたり、海岸線が15キロメートルに及ぶ東浦地区では、部落を結ぶ唯一の県道がいたる所で寸断され、加えて電話の不通、停電により、特に福田地区では全ったくの孤立状態となった。

小豆島消防署内海分署の記録より

7月6日

- 12:すぎ ●安田大川堤防(農協支所裏)決壊のおそれありの情報により分署員及び安田分団員出動。
- 13:すぎ ●西村流地区、苗羽向条地区(老人ホーム)危険の通報あり、各分団員応急措置
- 14:10 大雨強風波浪注意報発令
●消防団長は各分団に対し地区内の警戒パトロールを指示、非常事態が発生した場合は、分団長の判断により分団員の出動命令を発するよう指示。
- 14:30 ●西村分団招集
●このころより各所に浸水、がけ崩れ等の通報多くなる。
- 15:00 ●苗羽分団、福田分団招集。
- 15:30 ●町水防計画に基づき水防本部設置。
- 16:30 ●安田分団招集
- 18:00 ●坂手分団招集
- 18:40 ●木庄川が危険状態との連絡 ●片城川が約20センチで氾らんしその連絡
●橋でがけ崩れが起きそうの連絡。
- 19:ころ ●福田森庄川が氾らん。
- 20:40 ●橋バス停附近の民家が崩れ危険との連絡。
- 20:50 ●田浦川が氾らんの連絡 ●草壁本町峰の庵附近山崩れの連絡。
- 21:ころ ●安田大川附近、草壁別当川流域、苗羽馬木地区、橋危険地区、福田尾崎、岡部落、各住民避難命令。

- 21:10** 大雨警報 洪水強風波浪注意報発令
- 橋川が氾らんしているため人員とカマスを持ってきてほしいとの連絡あり。
分署員が車で行くが道路が通れず、二次災害の恐れあり引き返す。
 - 消防庁舎前、役場附近水かさを増す。
- 21:12** ●神懸通、高橋旅館前の川が増水して危険の連絡。
- 21:20** ●西村、農協支所横の民家裏山が崩れ浸水しているの連絡。
- 21:30** ●草壁中尾繊維附近の民家の塀が崩れ浸水していると連絡。
- 21:34** ●苗羽、醸酵食品試験場上の川が氾らんの連絡。
- 21:36** ●草壁幼稚園の前の川が氾らんの連絡。
- 21:40** ●安田自治会館横の川が氾らんの連絡。
(この頃、福田三宅橋上流より土石流が押しよせ、パトロール中の消防団員の村本さん行方不明となる)
- 21:50** ●西村、西条川が氾らんの連絡 ●内中横の川に流木がつかまっているの連絡。
- 21:52** ●芦の浦の川が氾らん、民家1戸が孤立しているの連絡。
- 21:55** ●坂手、東谷川が氾らん、民家が浸水の連絡。
- 21:57** ●苗羽、常光寺横の川が氾らんの連絡。
- 21:58** ●安田消防屯所浸水のため電話不通の連絡。
(21時から22時の降雨量92ミリを観測(太陽の丘))
- 22:00** ●町役場附近浸水はなはだしく停電となる。(避難するもので大混乱)
●安田消防屯所、スネ位まで浸水の連絡。●木庄、夫婦池決壊の連絡。
●町災害対策本部設置。
- 22:04** ●橋幼稚園の裏土砂崩れにより民家が潰れそうの連絡。
- 22:05** ●草壁、川東地区の民家に水が入り外へ出られないとの連絡。
この頃、約30分間分署の無線機通信不能となる。(原因不明)
- 22:10** ●県警機動隊35名、高松海上保安部巡視艇の応援出動を求め高松港より出発
- 22:20** ●福田、岡地区の民家が1戸押し潰されたとの土庄本署よりの連絡あり。
(この時点で内海～福田間の電話が不通になったものと思われる。)
- 22:36** ●馬木、大池が決壊寸前との連絡。
- 23:15** ●安田公民館北で住民が孤立状態になっているとの警察よりの連絡。
- 23:45** ●町内全戸停電

7月7日

- 0:24** ●橋部落の民家が土砂崩れにより20戸～30戸が押し流され、その下敷きになっている者も出ている模様との警察よりの連絡あり。
- 0:40** ●分署職員9名安田分団員2名と相前後して、内海警察署員7名が橋地区へ救出に向う。

悲

夢

の



山津波と

濁流襲う

橘地区の山津波

10名の方が亡くなった西部地区

(小松島航空隊写真室提供)

山

+

跡

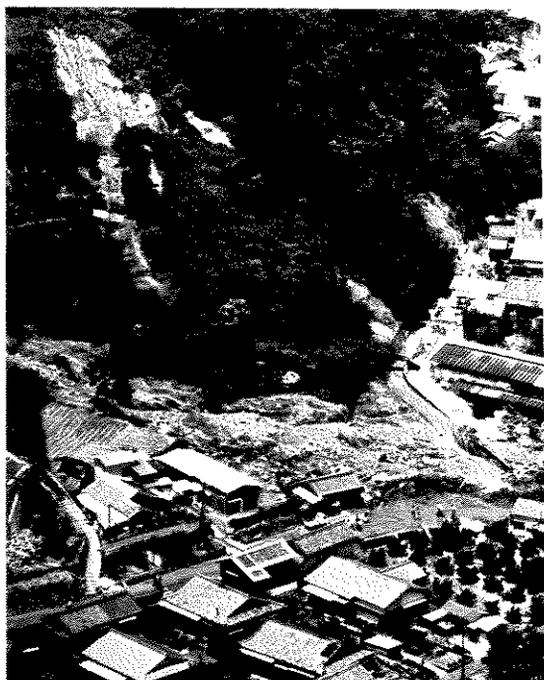


福田伊豆川のはんらん

福田地区は伊豆川がはんらん、民家の軒先まで土砂が押し寄せる
(小松島航空隊写真室提供)

〈橘地区〉

橘地区は3ヶ所で山津波による犠牲者がでた（写真上東部、下中部）



（小松島航空隊提供）

かみなりのような音がすぐそばを

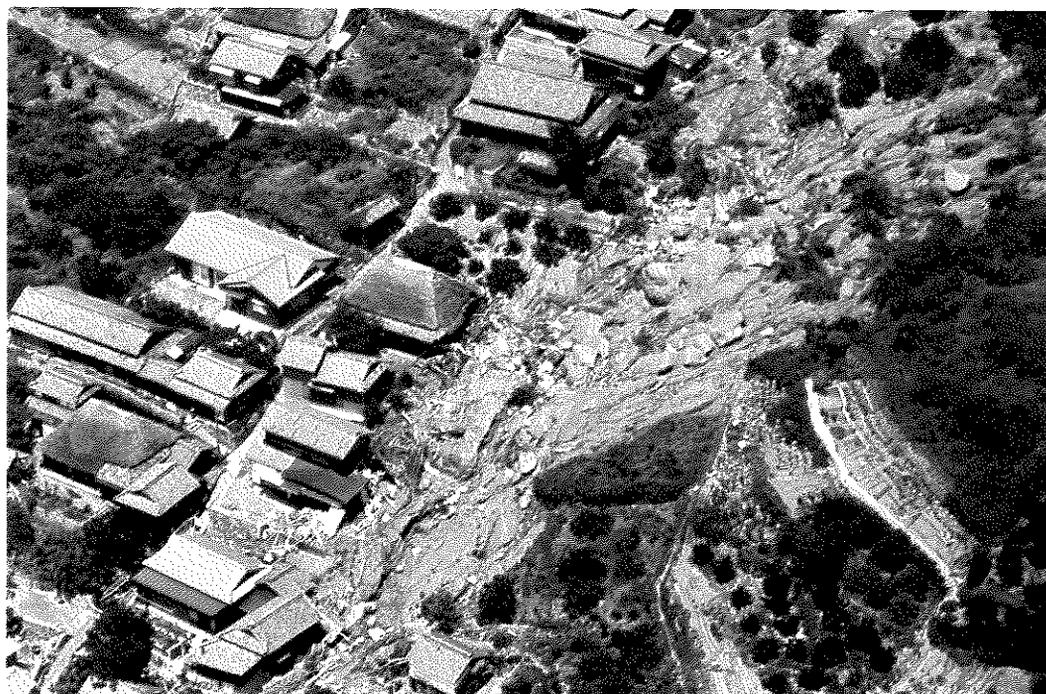
「ねむっていたぼくを、おかあさんが、ゆり起こしました。目がさめると、ゴロゴロというかみなりのようなすごい音です。ぼくの家がすぐ横を、山つなみが走ったのです。それから、おとうさんが外から帰ってきて、ぼくをおんぶしてにげました。こわくはありませんでした。」

（安田小学校三年 石井 正君）

〈岩谷地区〉



裏山からの土石流により跡形もない民家（椎木川附近）



国指定文化財の大阪城残石群も土砂と共に民家へ押し寄せた（小松島航空隊提供）

< 福田地区 >

21時40分頃だと思いますが、三宅橋で流木を取り除く作業中、突然上流より物すごい音と共に、屋根の高さ程の土石流が押し寄せてきて、私は一瞬足がすくみ、気が付くと濁流の中で浮き沈みして流され、途中もうこれでおしまいかと思いました。約150メートル程流された所で何かに引っ掛りそれにしっかりつかまってやっと岸へはい上り、一命を取りとめました。

(福田消防分団員 高木丈治さん)



伊豆川の決かい

< 吉田地区 >

一夜のうちに川原となった水田



< 安田地区 >

ずたずたになった安田大川

土砂で埋った大川（八軒屋部落附近）
—この付近は護岸高二メートル幅七メートルあった—



倒壊した棟木、根のついた流木が当時のすさまじさを語る（安田消防分団とん所横）



木庄 夫婦池（下池）

上池は1ヶ所、下池は2ヶ所にわたって
えん堤が決かいした。



土砂で埋まった木庄川



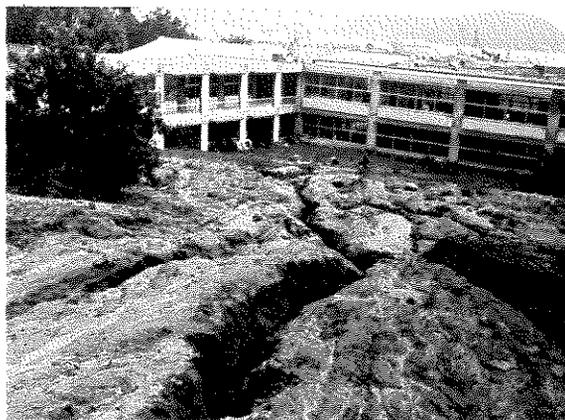
落橋した諸口川5号橋（安田）

埋没した水田（安田古郷地区）

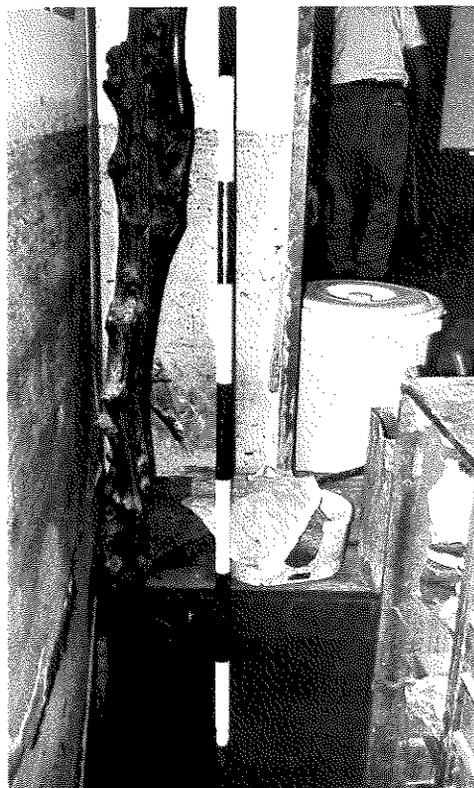




安田（植松地区）及び苗羽（馬木地区）は
ほとんどの世帯が床上浸水となった。
（写真上と右）



裏山の土砂崩れにより校庭が埋まった（星城小学校）



救援・捜索活動

7月7日(日) くもり後晴 (参議院議員選挙投票日)

- 2時10分 橘地区までの約5kmの全行程を危険をおかし徒歩進行した分署職員より、県警第1機動隊35名と合流、直ちに救助及び遺体収容作業を開始するとの連絡を受ける。
4 遺体収容、負傷者2名救出、その他家屋倒壊、死傷者多数発生の様様。
- 3:00 町は県に対して陸上自衛隊の派遣を要請する。
- 3:30 岩ヶ谷、当浜、福田並びに吉田地区は道路寸断、通信途絶により被害状況把握困難なため、船舶無線、アマチュア無線及びラジオでの呼びかけ依頼を行うも不通。
坂手海上保安署巡視艇により、橘地区へ町立病院医師及び看護婦を救護に派遣。
- 4:07 県は陸上自衛隊(善通寺駐とん地)に災害派遣要請。
- 5:30 強風、波浪注意報に切替。
- 5:40 陸上自衛隊(第1次派遣隊114名、車輛5台)出動。
- 6:05 県水産指導船「ことぶき」「やくり」県警、県職員等50名を派遣のため高松港出港
- 6:35 県警警備部長他228名現地派遣。
- 8:10 陸上自衛隊第1次派遣隊役場へ到着、直ちに現場へ急行。
- 9:10 県知事、被災地上空並びに現地調査。
- 9:20 電々公社、関西通信作業員(12名)橘、福田地区に向う。
- 9:30 内海町災害救助法適用。
- 9:45 陸上自衛隊(第2次派遣隊109名、車輛9台)出動。
- 10:30 " (第3次派遣隊110名、車輛18台)出動。
- 11:40 " (第4次派遣隊32名、車輛8台)出動。
- 12:00 日赤救護班橘地区で負傷者救護活動開始(医師3名、看護婦10名)
- 14:00 土庄町及び池田町消防団、橘地区へ応援に向う。
- 15:05 陸上自衛隊(第5次派遣隊57名、車輛15台)出動。
" (第1次派遣隊100名、車輛4台)撤収。
高松海上保安部巡視船より福田地区で死者1、行方不明4、負傷6、全壊8、半壊20、床下浸水60の被害報告あり。
- 16:00 陸上自衛隊(第6次派遣隊57名、車輛10台)出動。
- 17:00 " (第7次派遣隊44名、車輛2台)出動。
- 17:15 " (第8次派遣隊64名、車輛3台)出動。
- 18:00 強風、波浪注意報解除
遺体収容 18体 行方不明者 11名

7月8日 (月) 晴

- 行方不明者捜索のため海上自衛隊に派遣要請。
- 陸上自衛隊（第9次派遣隊96名）出動。
- 応急仮設プレハブ16戸、校舎改造4戸の建設を発注(県)
- 海上自衛隊現地到着（18：30）

遺体収容 4体 行方不明者 7名

7月9日 (火) 晴

- 海上自衛隊駆潜艇2隻現地到着（8：00）
- " ダイバ用船 " （10：35）
- 福田地区まで道路開通（作業用車輛のみ通行）
- 政府災害調査団、山内一郎国土庁政務次官外10名が県知事、県議会議長とともに現地視察。

遺体収容 2体 行方不明者 5名

7月10日 (水) くもり後雨

- 臨時町議会開催。
- 大雨雷雨注意報発表される（16：30）

橘被災地住民、橘公民館、草壁公民館へ避難。

遺体収容 1体 行方不明者 4名

7月11日 (木) 雨後くもり

- 朝より雨のため住民の流言が飛びかう。広報車により町内巡回。
- 大雨雷雨注意報解除（14：40） 14時までの降雨量25.5ミリ。

遺体収容 2体 行方不明者 2名

7月12日 (金) くもり

- 自衛隊の災害派遣部隊を次の計画で撤収するよう要請。
陸上自衛隊主力……………13日 残余……………15日
海上自衛隊……………15日
- 福田地区で消防活動中殉職された村本定さんの遺体収容。
行方不明者 1名

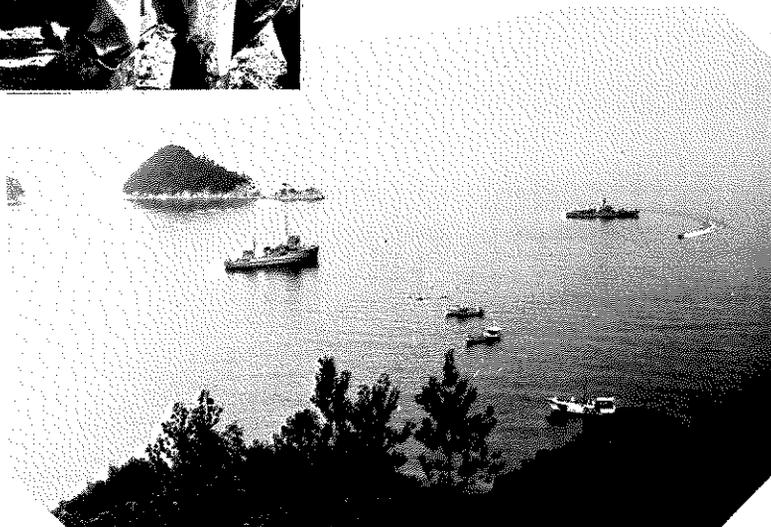
7月13日 (土) 晴

- 災害発生後8日目の朝9時50分、最後の行方不明者（岩ヶ谷地区）の遺体を収容。



隣町からの応援も加わって捜索活動をする消防団員（四国新聞社提供）

海上では自衛艦、県警アクアリング隊
地元漁船が出動して捜索活動を行った。
（写真上と下、いずれも橘地区）

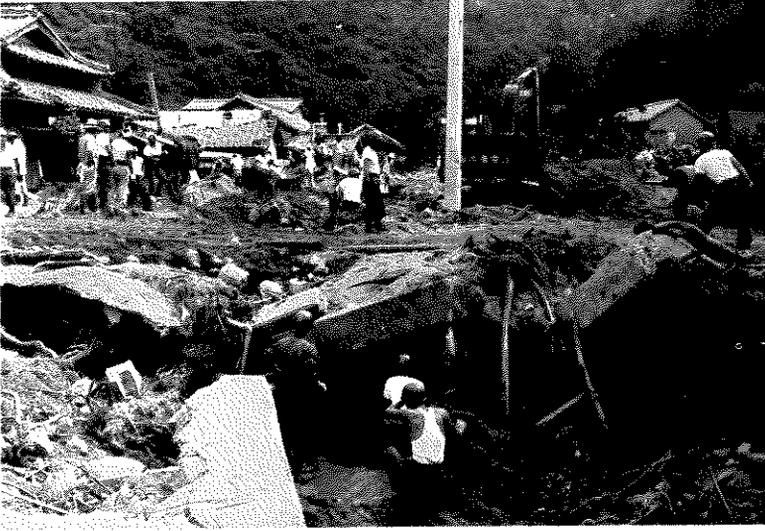


タンカに乗せられて救出される負傷者
（毎日新聞社提供）

岩谷地区は最後の遺体発見場所となった。

(写真上)

炎天下で懸命の自衛隊員と地元民



(写真中)

崩れ落ちた石で難行する機動隊員



遺体の発見

毛布でかこいをして

(写真右、福田地区)

ごくろうさま自衛隊

九日間の復旧作業、捜索活動を終え、十五日昼前
住民に感謝され撤収した。



関係機関の出動状況

分類 機関名	出動人員 人	車 輛		船 舶	備 考
		一般車 台	特 車 台		
陸上自衛隊	3,693	452	168		ヘリコプター 2機
海上自衛隊	1,080			駆 潜 艇10 支 援 艇 6 ダイバー用船 5	
県管 区警 機動 警察 隊	2,104	75			アクアラング 10 ゴムボート 2
消 防	内海町	1,393	43		
	土庄町	915	26		
	池田町	521	10		
	本部	151	16		
	阿南市	24			
海上保安部	147			巡 視 艇14	
そ の 他		県 41 日赤 2		県水産指導船12 漁 船72 機 帆 船 6	民間業者等の出動状況 は復旧作業の項に記載
計	10,028	665	168	125	

死亡者名簿

番号	本籍	住所	職業	氏名	生年月日	発見日時
1	本住	内海町橘甲639の3 " " 639の3	漁業	児玉広見	大12. 2.12	7日 2:00
2	本住	" " 654 " " 650	無職	町上フミエ	大15. 3.10	" 3:30
3	本住	" " 654 " " 681	漁業	町上数広	昭25. 8.29	" 3:30
4	本住	" " 654 " " 650	中学1年	町上千影	昭36. 6. 8	" 3:30
5	本住	内海町安田甲1,639 " 橘甲515	石工	野田月吉	大 2. 5.18	" 4:00
6	本住	" " 411 " " 411	無職	黒崎コエイ	明34. 1. 1	" 9:00
7	本住	" " 411 " " 411	漁業	黒崎多喜雄	明36. 2.20	" 9:00
8	本住	" " 104 " " 104	無職	梅本トキ	明31. 5.15	" 9:00
9	本住	" " 434 " " 434	漁業	白崎カツ子	大14. 9. 7	" 9:45
10	本住	" " 636 " " 636	無職	上嶋アヤ子	昭 4. 1. 3	" 10:00
11	本住	" " 516の1 " " 652の1	漁業	下間守	昭 8. 1. 3	" 10:00
12	本住	" 草壁本町甲213 " 橘甲638	"	吉田種一	昭 7. 2.18	" 10:00
13	本住	" 福田甲974 " " 974	無職	丸山智美	昭16. 5.25	" 10:00
14	本住	" 橘甲653 " " 653	漁業	大沢豊治	明40.11.15	" 13:20
15	本住	" " 653 " " 653	無職	大沢ムメ	明37.10.19	" 13:20
16	本住	" " 654 " " 681	幼児	町上勝章	昭47.11.20	" 14:00
17	本住	" " 413 " " 413	無職	阪田スズ子	明44. 6.13	" 15:00
18	本住	" 福田甲974 " " 974	幼児	丸山文香	昭49. 3.27	" 16:00
19	本住	" 安田甲733 " " 733	無職	森フミ	明45. 4. 1	8日11:00
20	本住	" 橘甲85 " " 85	"	島崎トミエ	大 9. 9. 9	" 11:55
21	本住	" " 434 " " 434	"	白崎タミコ	明37. 4.16	" 12:40
22	本住	" 福田甲88の1 " " 88の1	協会役員	須計コトミ	大 2.12.23	" 17:00
23	本住	" " 1,030の2 " " 1,074の1	農業	藤本フクエ	大 1.12. 9	9日 9:00
24	本住	" 木庄甲104の2 " " 36の1	無職	長谷川キサコ	大 5. 3.29	" 13:15
25	本住	" 岩ヶ谷甲325 " 福田甲228の1	石工	松本英夫	昭11.12.13	10日21:00
26	本住	大阪府茨木市下穂積53 内海町橘甲465	中学1年	小山薫子	昭36.12. 7	11日11:36
27	本住	" 岩ヶ谷甲3 " " 3	工員	松本春美	昭 9. 3.31	" 15:55
28	本住	" 福田甲1,000 " " 1,000	大工	村本定	昭 9. 4. 5	12日 8:20
29	本住	" 岩ヶ谷甲337 " " 337	無職	岡本正記	明21. 9. 8	13日 9:50

※ 橘地区 19 岩ヶ谷地区 2 福田地区 6 安田地区 2

合同告別式

安らかに・・・二十九柱

台風8号がもたらした集中豪雨による災害から10日目の15日、午後3時から内海中学校講堂で、悲しみも新たに「内海町集中豪雨犠牲者合同告別式」が行われ、参列者は犠牲者のめい福を祈るとともに「二度と悲惨な災害を繰り返すまい」と誓い合った。

白と黄の美しい菊の花で飾られた祭壇には、橘地区14世帯19柱、福田地区5世帯6柱、岩谷地区2世帯2柱、安田、木庄地区各1世帯1柱、計23世帯29柱の遺影と遺牌が掲げられ、ほとんどが老人と子供であった。生後3ヶ月の幼児と母親、級友らが心をこめて作った千羽ヅルにふちどられニッコリ笑いかける中学一年生の2人、妻、長男、4女、孫の一家4人の遺影等が参列者の涙をさそっていた。

式には遺族をはじめ、県知事、自衛隊、県警等来賓、関係者のほか、級友を失った内海中学生、一般町民など約900人が参列、真言宗総本山善通寺蓮生善隆管長、浄土真宗本派本願寺雑賀貞信管長ら14人の僧りよの読経のあと、川北町長は「再びこのような災害を繰り返さないよう、防災対策に全力を集中することが、あなた方の魂を救う唯一の道だと思います。町民の皆さんと力を合わせて復旧に努力することを誓います」と弔辞を述べた。続いて金子県知事、前田県議会議長、谷本町議会議長、浜崎橘部落総代、木原中学校長の弔辞のあと、内海中学校の生徒を代表して三年生の久保智美さんがいまは亡き学友に呼びかけるように「あなたたちは、中学生生活を始めたばかりなのに二度と会えない所へ旅立ってしまった。ころがり落ちる土や石、うず巻く濁流、どんなに恐ろしく、つらかったことでしょう。あなたたちを連れ去った大雨が憎い。力になれなかった私たちの力の弱さをお許し下さい……安らかに眠ってください。さようなら」と悲しい別れの弔辞を述べると、式場にすすり泣きの声があふれた。

午後3時5分、1分間の黙とうを呼びかける公民館放送が流れた。泥にまみれながら復旧の手を休めての黙とう。一瞬、町内は厳粛なふん囲気に包まれた。



長谷川キサコ
木庄 58歳



森 フミ
安田 62歳



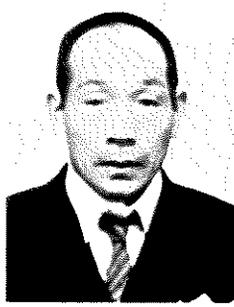
下 間 守
橘 41歳



上 嶋 アヤ子
橘 45歳



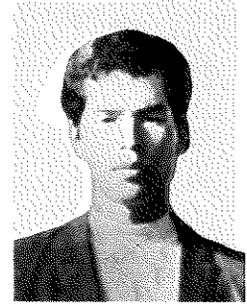
吉 田 種 一
橘 42歳



児 玉 広 見
橘 51歳



町 上 フミエ
橘 48歳



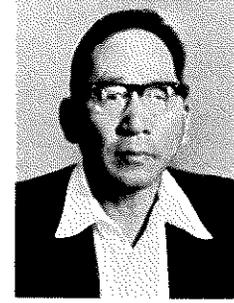
町 上 数 広
橘 23歳



町 上 千 彰
橘 13歳



町 上 勝 章
橘 1歳



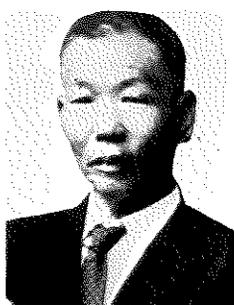
大 沢 豊 治
橘 66歳



大 沢 ム メ
橘 69歳



野 田 月 吉
橘 61歳



黒 崎 多 喜 雄
橘 71歳



黒 崎 コ エ イ
橘 73歳



梅 本 ト キ
橘 76歳



小山 薫子
橋 12歳



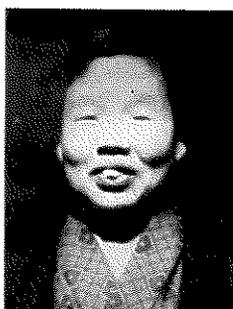
白崎 タミコ
橋 70歳



白崎 カツ子
橋 48歳



阪田 スズ子
橋 63歳



島崎 トミエ
橋 53歳



松本 春美
岩谷 40歳



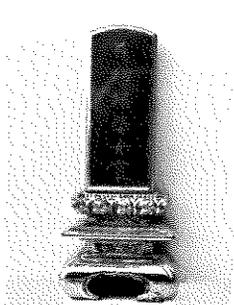
岡本 正記
岩谷 85歳



須計 コトミ
福田 60歳



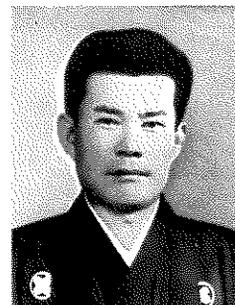
丸山 智美
福田 33歳



丸山 文香
福田 3ヶ月



村本 定
福田 40歳



松本 英夫
福田 37歳



藤本 フクエ
福田 61歳

弔 辞

本日、ここに内海町主催のもとに、不慮の大災害により尊い生命を天に召された、故岡本正記殿ほか二十八名の方々の合同葬儀が、ご遺族、ご親族並びに金子知事さんをはじめ多数のご出席のもとに、おごそかに執り行われますにあたり、町民を代表し謹んでご霊前に哀悼の誠を捧げます。

思えば悲運の七月六日、本土を襲った台風八号は梅雨前線を刺激し、小豆島東部はかつてない三百数十ミリに及ぶ集中豪雨にみまわれ、河川は氾濫或いは決壊し、随所に土石流が発生、家屋が流出倒壊する等、本町は未曾有の大災害をうけ、なおその上、生後三ヶ月の愛児をしっかりと胸にいただいたやさしいお母さん、将来を期待された中学生、出勤中に殉じた消防団員、一家の支柱である大事なお父さん、家庭にとって特に大切な主婦の方々、並びに長寿を楽しむご老人等、老若男女あわせて実に二十九名にも及ぶ尊い人命が一瞬にしてうばい去られました。誠に哀悼痛恨の極みであり天を仰いで空しくその無情を歎ずるほかありません。

ご遺族のご心中を思えば察するになおあまりあるものがあり何んともお慰めの言葉もございません。

生ある者は必らず滅するとは申しながらあまりにも悲惨な大惨事で、誰があの恐るべき災害を予想することが出来たてでありましょうか。今は只、茫然自失、言うべき言葉さえ見出し得ない処であります。

昇天のみ霊も仲々安らかでないものがあることでございましょう。私どもはこの度の尊い犠牲を教訓として肝に銘じ二度と再びこのような大悲惨事を繰り返さないよう住民の皆さんと共に力を合せて直ちに改良復旧に又、防災工事に全力を傾注し、民生の安定のため最大の努力をいたすことこそあなた方のみ霊をお慰め申し上げる唯一の道であると信じ、ここに謹んでお誓い申し上げます。こい願わくば、在天のみたま、とこしえにこの地にとどまれ、ご遺族に対し限りなきご加護をたれ給わらんことを念じ、あわせて悲しくも幽明境を異にされたご霊前にぬかづき限らない追悼の誠を捧げ、ひたすらご冥福をお祈りいたしましてお別れの言葉といたします。

昭和四十九年七月十五日

内海町長 川 北 四十二

時に、昭和四十九年七月六日夜半、平和の島小豆島の東部地区を中心にわが香川としては未だかつてなき三百六十五ミリに及ぶ局所的集中豪雨、台風八号によってもたらし、瞬時にして二十九名の尊き生命を奪うに至る実にいたましい限りであり悲しみの極みであります。

当初は、行方不明になりし方々も多く、町当局はもとより自衛隊、警察機動隊、消防団等懸命の努力をつづけ、ようやくにしてご遺体を全部収容するに至りましたが、被害當時を偲ぶとき、実に懐愴極まりなく今もお胸の痛むを覚えます。

思えば、犠牲となられし方々には何れもこの美しき島に生れ、育ち、その多くはここを本拠に漁業等の生業につき営々として島の発展に寄与せられしものであり、又この中には生後間もなき乳児等、幼児もあり、実にいたましく、また惜しく悲しく、殊に御遺族の御心中を思うとき、悲しみ更に深く痛恨哀悼惜別の情禁じ難きものがあります。このたびの尊い犠牲を災害防止のよき教訓として将来に生かし、再びかかる犠牲の繰り返すことのなきよう万全の方策を期するとともに、かくしてこそこの二十九名の多きに及ぶ犠牲者のみ霊を慰める道であると私どもは固く誓うのみであります。

本日ここにみ仏の島なつかしきこの地に悲しみをともにする人々相集り、悲痛深き中に厳肅盛大に内海町主催の合同告別式が執り行われるに当り、在りし日のお健やかなお姿を想起し、人それぞれこの世に生まれ歩み来たりし跡を偲びながら犠牲者の御霊安らかに眠せられ、わが郷土をとしえにお護り下さいとひたすら願い祈りつづけて弔辞といたします。

昭和四十九年七月十五日

香川県知事 金子正則

長い冬のおむりからさめ、桜の花が咲きみだれる春、夢と希望に胸をふくらませて、あこがれの内海中学校の生徒になり、まだ数ヶ月しかたっていない町上さん、小山さん……新しい友達も出来、やっと心もうちとけあえるようになり、楽しい中学生生活をはじめたばかりだったのに、あなたたちはもういない。二度とは会うことのできない遠い所へ……だまって旅だっていったあなたたち……家族の人といっしょに、またただひとりで行ってしまったあなたたち。

降りしきる豪雨、うずまく濁流、くずれる山はだ、転げる岩石、流れる大木と共々にまっ暗な中を……いってしまったあなたたち、どんなにか恐ろしかったでしょう。どんなにか痛かったでしょう。どんなにかつらかったでしょう。どんなにか苦しかったでしょう。それを思うと私達の胸はつまり、はりさけそうです。残ったおうちの方々の心を思うとさらに胸が痛みます。

あなたたちを襲いつれ去った大雨がにくい。悲惨な形で友やその肉親を、そして多くの人々を奪い、家を倒し、町をこわしたにくい濁流、そして苦しむあなたたちの力になることができなかつたわたしたちの力の弱さをつくづく痛感しています。本当にお許し下さい。でもあなたたちが身をもって残してくれた多くの教訓を身近なところから生かしていく決心です。そしてあなたたちにおむくいする覚悟です。常に、そしていつまでもわたしたちを身守って下さい。

町上さん、小山さん、そして多くの皆さん方、あなた方のご冥福を内海中学校生徒一同心からお祈りいたします。安らかに眠って下さい。さようなら。

昭和四十九年七月十五日

内海中学校生徒会代表 久保智美

内海町集中豪雨犠牲者合同告別式



二十九柱の霊安かれ……



菊の花で飾られた霊前で弔辞を述べる川北町長

炊き出し・給食

災害後、福田地区を初めとして、各地区の婦人会が中心となって、炊き出し作業を始めました。一方、被害がほとんど全町に及んだため、内海町としても、給食センターをフルに使って、被災者や救護活動を行なっている人達への炊き出しを始めました。

当初、炊き出しをするにしても、雲をつかむようなもので、何食分準備すればよいのかまったく検討がつかず、大変混雑しました。

給食センターへは、朝早くから駆けつけてくれた婦人会の方々が、休む間もなく、朝昼晩、3食のおにぎりを手を赤く腫らしながらつくってくれました。又、土庄町や池田町からも、1週間延207名もの婦人会の方々の応援を頂き、大変感謝されました。このように、給食センターではたくさんの人々の出入りや炊き出しの熱気と騒音で、一時は戦場のようなきわぎでした。

炊き出しが長期にわたったため、おにぎりばかりではとの声もあり、とりあえず手持ちの材料で、その後は救援物資も次々と届き、県の生活改善普及員の方々の協力も得て、食事の内容、栄養のバランスなどにも気を配って、せめて食事の時間ぐらいは、くつろぎおちついて食べてもらおうと努力しました。

炊き出し、給食活動は6日から20日までの15日間にわたって、延27,692食、婦人会をはじめ延1,211人の奉仕活動の人々によって行なわれました。



熱気の中で炊き出しをする婦人会の人々（学校給食センターで）

給食実績数・炊き出し従事者数及び米穀類使用数

施設名 日	給食センター	福田公民館	当浜公民館	岩谷公民館	隣保公民館	安田小学校	安田自治会館	木庄分館	馬木真光寺	坂手公民館	計	炊き出し従事者数			
												夕食センター職員	婦人会	その他	計
6		190									190		10		10
7	2,303 (1,000)	635	170	348	168	220	245	250	60	4,399	14	177	4	195	
8	1,890	635	170	284	168	200	242	250	60	3,899	14	155	4	173	
9	1,780	635	170	284	165	115	242	200	60	3,651	14	142	4	160	
10	1,728	635		284	165	12	242			3,066	14	109	8	131	
11	1,620	565		284	152		242			2,863	14	101	8	123	
12	1,330	545		255	147		242			2,519	14	86	8	108	
13	1,297	30		186	140					1,653	14	51	8	73	
14	1,237	30			140					1,407	14	5	43	62	
15	820				140					960	14	24	4	42	
16	833				140					973	14	25	4	43	
17	544				140					684	14	13	4	31	
18	394				140					534	14	2	4	20	
19	372				138					510	14	2	4	20	
20	252				132					384	14	2	4	20	
計	16,400	3,900	510	1,925	2,075	547	1,455	700	180	27,692	196	904	111	1,211	
米穀類使用数	米	3,242	739	102	385	379	110	266	140	36	5,399	(単位) 給食実績数 —— 食 炊き出し従事者数一人 米 —— kg パン —— 個			
	パン	372	410			356		250			1,388				

()の数字は丸金醤油KKでの給食実績数

救援物資・義援金

災害発生ニュースが報道されると、全国各地からの暖かい救援の奉仕活動と共になくさめのこもった救援物資や、厚意の見舞金が続々と寄せられ、絶望の極にある遺族に希望を与え、復旧作業でつかれた被災者に大きな励ましとなった。

徳島県阿南市の橘町は、昭和35年のチリ地震の大津波で約3,000戸の半分が床上浸水となった時、内海町消防団が見舞品を持ち復旧作業の応援に駆けつけてくれた時の恩返しとして、婦人会や商店街の人々による多額の見舞金や慰問の品々をたずさえて、マイクロバスとトラックで暗いうちに阿南市を出発し、ヘドロとゴミの清掃作業に全力をあげてくれました。

小学生達が自分の小づかいを出しあって、災害を受けた児童の皆さんへと行って励ましの手紙と共に持ってくるもの、老人ホームのお年寄りからのもの、小豆島への旅行者が船の中で集めてくれたもの、遠く他県にあって、ふるさとの災害を心配して多額の見舞金を贈ってくれた小豆島会の皆さん、部落や職場、婦人会や各種の会、団体、農協など、多くの人々の愛のこもった善意が心から感謝されました。

救援物資地域別状況

北 陸 地 方	2 件
関 東 "	8
関 西 "	8
中 国 "	4
九 州 "	1
四 国 (香川以外)	28
県 内 (小豆以外)	99
郡 内 (土庄、池田)	30
町 内	28
合 計	208

内海町へ温かい手を

救援義援金を募集

西 四 国 日 本 新 放 送 社

〒770-0001 徳島県阿南市橘町1-1-1

電話 087-821-1111

〒770-0001 徳島県阿南市橘町1-1-1

電話 087-821-1111

西四国日本新放送社が、被災地へ救援物資を送るため、徳島県阿南市橘町に事務所を開設し、救援物資の受付を行っています。

救援物資の受付先：阿南市橘町1-1-1 西四国日本新放送社（電話087-821-1111）

救援物資の受付時間：午前9時～午後5時（日曜・祭日を除く）

救援物資の受付先：阿南市橘町1-1-1 西四国日本新放送社（電話087-821-1111）

救援物資の受付時間：午前9時～午後5時（日曜・祭日を除く）

町災害対策本部へ届けられたおもだった物資

食 料 品	野菜 2 t 車で 6 車分と 22 箱並びに 710kg 白米 615kg、卵 50kg と 450 個、缶詰 146 ケースと 8,674 個、ソーセージ 18 箱、エビフライ、コロッケ 4,000 個、梅干漬物 50kg、カラシ 40kg、佃煮 20 ケースと 1,600 個、ラーメン 360 個、醤油 100 ケース、ゴマ油 100 本、塩 1,215kg、弁当 770 食 ジュース・コーラ 2,224 本、ヤクルト 100 本、ドリンク 1,400 本 清酒 25 本、ビール 46 本、たばこ 3,900 個
衣 類 日 用 雑 貨 そ の 他	毛布 1,095 枚、布団 130 枚、タオル 19 ケースと 958 本、衣類、座ぶとん他、石けん 16 ケースと 1,008 個、マッチ、台所用品他はがき 6,670 枚他、医療セット 240 個、蚊取線香 800 箱、クレゾール 10 ケース、スミチオン 18 箱、ミネラルウォーター他、学用品、一輪車 50 台、ダンボール箱 30 個他

《義援金内訳》

◎ 特別義援金

区 分	件数	金 額
御 下 賜 金	1	50,000
災 害 復 旧 費 へ	6	1,405,000
救 助 物 資 へ	2	3,100,000
災 害 救 助、救 援 金 へ	6	5,433,000
町 の 用 費 へ	4	260,000
告 別 式 等 へ	4	16,000
同 和 地 区 へ	1	13,800
消 防 団 へ	1	10,000
職 員 組 合 へ	6	142,500
婦 人 会 へ	2	220,260
橘 自 治 会 へ	1	30,000
被 災 者 へ	37	4,065,655
教 育 関 係 へ	163	3,274,746
計	234	18,020,961

◎ 一般義援金

区 分	件数	金 額
個 人 からの見舞金	51	1,582,800
企 業 からの見舞金	35	5,890,000
協 会 等 からの見舞金	23	3,060,000
公 共 団 体 からの見舞金	15	1,934,000
募 金 カ ン バ さ れ た 見 舞 金	178	31,596,431
そ の 他 団 体 からの見舞金	33	3,596,000
計	335	47,659,231

合 計 569 件
65,680,192 円

《義援金配分内訳》

◎ 指定見舞金

区 分	金 額
ライオンズクラブ関係	2,700,000
町 職 員 組 合	142,500
橘 自 治 会	30,000
消 防 団 及 び 消 防 団 員	100,000
町 婦 人 団 体 連 絡 協 議 会	220,260
教 育 関 係	3,274,746
計	6,467,506

◎ 一般見舞金

区 分	金 額	備 考
死 亡 者	5,800,000	20万円×29名
重 傷 (入 院) 者	900,000	5万円×18名
全 壊 世 帯	8,550,000	15万円×57世帯
半 壊 世 帯	3,550,000	5万円×71世帯
床 上 浸 水 世 帯	21,240,000	2万円×1,062世帯
軽 傷 者	180,000	1万円×18名
関 連 負 傷 者	100,000	2万円×5名
計	40,320,000	

(床上浸水の内未配分19世帯)

◎ 一般会計繰出

区 分	金 額
救 援 物 資 に 充 当	3,100,000
災 害 復 旧 費 に 充 当	1,405,000
告 別 式 等 に 充 当	16,000
町 用 費 に 充 当	260,000
計	4,781,000

◎ 墓地、公共建物見舞金 1,500,000 円

◎ 災害義援金基金積立金 12,611,686 円

合 計 65,680,192 円

ありがとうございました。……善意の贈りもの……

◎ 救 援 物 資

▶阿南市橘町婦人会商店会(徳島県)衣料品23箱・食料品12箱・石けん16箱・タオル18箱・缶詰10箱・作業服10着▶あかしや(土庄町)乳児用紙オシメ3箱▶安藤幸枝(坂手)梅干8kg▶秋山義一(新居浜市)衣類1箱▶安正明代(高知県)衣類1箱▶朝日設計中国事務所缶入キリンレモン30本▶愛知時計電気KK四国事務所清酒2本▶青木澄子(東京都)衣料品1ケース▶泉西土地KK(大阪市)清酒2本▶イカリソース・野菜ジュース5箱▶池田町商工婦人部昼食用弁当250食分▶池田町職員組合コーラ・ファンタ240本▶岩下アキノ(岡山市)衣料品1ケース▶稲毛(県小豆事務所)グロモント1箱▶井上和子(高松市)衣料品2ケース▶内海郵便局ハガキ6,670枚外1,334枚▶氏家薬品KK高松営業所かとりせんこう800箱・ドリンク剤3ケース▶上原製パン所ペビーとジャム600個▶宇野福雄(金沢市)衣料品4ケース▶内海町農業協同組合ダンボール30個▶上村康子(高松市)小包1ケース▶NHK厚生文化事業団日用品セット100・医療品セット240▶岡内勸光堂(高松市)ブラッシュポ4箱・ドリンク50本11ケース・ブラッシュー30本14ケース・クレゾール10ケース・ミネラルウォーター▶KK大林組高松支店缶詰30個▶奥村組四国支店ビールギフト券24本▶大矢タツノ(丸亀市)衣料品4ケース▶大阪市立颯愛高校3年3組衣料品3ケース▶大屋敷ミサヲ(高松市)シート外1ケース▶大塚直子(東京都)衣類1箱▶岡田繁一(国分寺町)小包1ケース▶香川信用組合内海支店マッチ1ケース▶香川県農業試験場職員一同玉ねぎ他▶香川防疫清酒2本・缶入ジュース30本10ケース・ドリンク60本10ケース・タオル5ケース60本▶観海楼ビール1箱・清酒10本▶香川県毛布775枚・敷布団100枚▶香川県社会課給食用野菜ナス他700kg・缶詰8,034個▶香川県社会福祉協議会米9斗・缶詰100ケース・ソーセージ18箱▶同県庁職員一同缶詰外寿司の粉40箱▶梶原万代美衣料品2ケース▶川崎嘉コロケ2,000個・エビフライ2,000個▶加登屋製油KK従業員一同ゴマ油20本入5ケース▶金子事務器ビール12本▶香川県教育委員会ビールギフト券36本▶鴨下光子衣料品1ケース▶川野芳枝梅干・佃煮▶観音寺漁商組合婦人部衣類12点▶関西リースKK衣類1箱▶関西水栓KK缶入ファンタ60本▶木村武千代野菜1車(6t)・生卵450個▶木場組合・寿司組合(草壁本町)弁当400食▶金正保(西村)タオル100本▶木村(京都)衣類▶菊川百合子(今治市)衣類1箱▶北内修一(高松市)衣料品1ケース▶工藤延子(伊予三島)乳児用衣類1ケース▶黒田キノ(西村)トマト10kg▶兼頭千草(高知県)衣料品1ケース▶向進舎印刷所ビール1ダース▶弘法寺(土庄町)衣料品1ケース▶弘洋吉田勝義たばこ200個▶コココーラKKコーラ300本▶讃岐缶詰KK有志従業員一同衣類4箱・缶詰5箱・杖1本・かばん2個▶讃岐化成KKビールギフト券12本▶斉藤独歩(国分寺町)衣料品2ケース▶作車町長(岡山県)2箱▶サンフラワー(土庄町)寿司120食分▶サクラメレイKK高松出張所清酒▶三枝紀久(土庄町)衣料品2ケース▶斉藤光伯(高松市)小包1ケース▶KK清水建設清酒3本▶白浜小学校児童会ノート8ケース▶小豆郡青年団スミチラン洗剤18箱500g40▶潮来章豪(神戸市)クツ下他15点▶四国コーラボトリングKK香川第1地区部長コココーラ10箱▶小豆島西部地区労働組合ライオンクルーザー1,008個▶資生堂歯ブラシ990本・

歯磨1600本・ハイシャンプ720本・洗濯石ケン1620本▶小豆島民主商工会衣料品・食料品その他4 屯
 車1台・白米15kg10袋・ラーメン30箇11ケース▶四国新聞広告部カ帳▶小豆郡女子教員研究会座ブ
 トン114枚・手袋・・クツ下21・ハンカチ13・肌着9▶鈴木ナミエ・鳥取タミノ・道下ハナ(土庄町) 衣料
 品1ケース▶聖ドミニコ宣教修道会白米30俵・タラルケット10枚・バスタラル10枚▶全通労働組合
 小豆支部衣料1ケース▶善通寺市与北小学校児童会学用品11箱▶世界救世教香川県本部(高松市)
 白米60kg飲料水720ℓ▶園田香代子(大阪市)衣料1ケース▶高松市ビールギフト券102本▶宝食品
 KK椎茸のり佃煮1600個外▶高松市清掃業者連合会ビール40本▶タカラ繊維KK衿付ランニング他25
 0着▶タカラ洋裁米倉洋裁生徒従業員一同婦人衣料その他500点▶滝口茂義(高松市)衣料品1ケー
 ス▶高松市一宮小学校学用品3ケース▶高松市四番町小学校学用品1ケース▶高松市東津自治会
 衣料品1ケース▶高松市立多肥小学校衣料品3ケース▶谷川商店(安田)卵50kg▶竹田喜美子(丸
 亀市)衣料品3ケース▶大和ハウス工業KK四国工場衣料品1ケース▶武田薬品高松出張所ブラッ
 シー10ケース▶第1製薬高松営業所オロナミン1ケース▶多田機械店(坂出市)ジュース1ケース▶
 竹上綾子(北九州市)小包1ケース▶田中トシ子(宇和島市)小包1ケース▶田井ヨシエ(高松市)
 小包1ケース▶田岡忠義(高松市)衣料品2ケース▶第1生命小豆島支部衣料品22点▶中国電力小
 豆島営業所ビールギフト券60本▶千代田生命保険会社箱入タラル2本入200箱▶津郷良子(綾歌
 町)衣料品1ケース▶鉄労四国地方本部野菜▶KK帝国地方行政学会四国支店タラル1ケース▶手をつ
 なごうママさんクラブ(愛媛県)衣料品4箱▶富丘運送労働組合衣料品2個▶土庄町自由民主党婦
 人部キリンジュース60本▶土庄町湖崎自治会衣料品11ケース▶東京出版販売KK衣料品1ケース▶
 中尾繊維工業KKクレープ前割シャツ他1913着▶中山建材KKビール1ダース▶長崎タカエ(高知県)
 小包1ケース▶日赤高知支部毛布50枚日用品960組▶日赤香川支部日用品792個・夏季衣料1640着
 かけぶとん30枚▶日赤高松支部毛布120枚・日用品220組・衣料品1ケース▶日本専売公社四国支店
 食塩620g1960袋・タバコ3600個▶日本専売公社総裁タバコ100個▶日本生命高松店ビール20本・コ
 ーラ2ダース▶西原金属工業KK小豆島工場従業員一同ラーメン他▶日本青年会議所1輪車50台▶
 西山敦子衣料1ケース▶日本チバガイキKKビール3ダース▶西村浩(今治市)衣料品1箱▶日赤愛
 媛県支部衣料1ケース▶八軒米太郎(安田)ヤクルト100個▶橋本光一(草壁)白米2升▶白雲観光開
 発KK毛布150枚▶林田港子供会衣料品11ケース▶浜島知恵一(善通寺市)衣料3ケース▶原山和子
 (広島県)衣料品1ケース・ボールペン4個▶半明孝治(高松市)衣料品2ケース▶浜島利夫(高松市)
 小包1ケース▶原テル子(松山市)衣料品1箱▶橋本賢一衣類1箱▶久光謙三タオル28本▶日野
 (松山市)衣料品1ケース▶福本(西宇和郡)衣料品2ケース▶藤田義雄タオル・石ケン▶藤田豊(高
 瀬町)小包1ケース▶古川ゆき子(新居浜市)衣料品1ケース▶古川光子(松山市)衣料品1ケース▶藤
 原学園ビール20本▶扶桑建設工業(株)名物かまど▶丸金醤油KK醤油100ケース・つけもの▶丸亀友の
 会衣料品10ケース▶丸亀市立広島小童会ノート11冊・エンピツ1ダース▶マルフネ食品KKからし40
 K・佃煮10ケース▶松岡正好(池田町)衣料品1ケース▶増田アサエ(愛媛県)衣料品2ケース▶三木
 町役場住民課衣料品1ケース▶婦山ツネ代(横浜市)小包3ケース▶森寿治(豊中市)衣料品1ケー
 ス▶山村富美子(坂出市)衣料品1ケース▶山上もと子(鎌倉市)衣料品1ケース▶安原小学校児

童会(塩江町)学用品2ケース▶山内製薬大阪第2支店缶詰セット▶結城敏勝(高松市)衣料品1ケース▶横倉商事KK(高松市)タオルケット100枚▶渡辺みち子(高松市)衣料品1ケース▶渡辺登起子(今治市)衣類・雑誌1箱▶林業試験場四国支店有志(高知県)衣料品1ケース▶三越高松支店タオル50枚▶同支店長清酒3本▶特老ホームマリアの園野菜キャベツ他▶マルヨシセンタータオル200枚▶土庄中央老人クラブ(小豆島老人ホーム内)ビール60本▶近藤久子(愛媛県)衣料品1ケース▶世界救世教香川県本部白米60kg・飲料水720ℓ▶匿名(16件)衣類他66点



被災地へ
運び出される救援物資

◎ 義 援 金

▶綾歌町民一同218,380円▶綾歌町職員会30,000円▶阿南市(徳島県)50,000円同市役所橘地区職員一同10,000円▶同橘公民館長4,000円▶同橘婦人会180,000円▶同協同組合橘優良店会100,000円▶朝日生命高松支社職員一同38,300円▶新しい香川を作るみんなの会79,413円▶アママセン岡山有志一同30,000円▶アママセン小豆島クラブ一同3,000円▶旭芸能社1,600円▶青森県ブドウ協会10,000円▶麻田保英20,000円▶青木晴輝5,000円▶池田町100,000円▶池田町議会議員一同100,000円▶池田町職員一同32,500円▶池田町婦人会10,000円▶池田町農協職員一同70,000円▶池田保育所保護者一同15,000円▶池田建設工業KK(高松市)50,000円▶一吉証券KK(大阪市)50,000円▶いづみやショッピングセンター同友店一同(松原市)3,203円▶今川梅吉(土庄町)20,000円▶岩崎(兵庫県)5,000円▶内海町議会議員一同260,000円▶内海町職員一同50,000円▶内海警察署職員一同14,500円▶内海町交通安全協会20,000円▶内海町農業協同組合5,000,000円▶内海町建設業協会200,000円▶内海ゴルフ同好会・香友会100,000円▶KK内海ランド50,000円▶宇和島市民課同赤十字奉仕団15,000円▶宇山婦人会(広島県)10,000円▶(合資)上原製パン所50,000円▶宇高国道フェリー(船機長会)100,000円▶円応教100,000円▶大阪小豆島会500,000円▶大阪小豆島会有志一同788,263円▶大阪香川県人会500,000円▶大阪市役所登山部30,000円▶大阪石材建設協会100,000円▶大阪散歩会(尼崎市福田明・口頭迪夫)5,000円▶大阪建物KK100,000円▶岡山小豆島会35,000円

▶岡山フイシシグクラブ15,000円▶岡山大学ヨット部5,000円▶大川地区農村青少年クラブ2,215円▶小蒲野消防婦人クラブ一同20,000円▶オーリーブタクシー労組8,000円▶岡田旭屋(土庄町)50,000円▶同従業員一同7,500円▶岡田静雄(香川町)50,000円▶岡本早一(土庄町)3,000円▶岡本通(片城)300,000円▶岡員司(大阪市)50,000円▶大倉直一(多度津町)5,000円▶大森久雄(高瀬町)2,000円▶大木(奈良県)10,000円▶尾上久二(ハワイホノルル市)299,000円▶香川県1,000,000円▶同5,300,000円▶同社会課154,000円▶香川県共同募金会6,975,159円▶香川県町村会1,000,000円▶香川県町村議会議長会300,000円▶香川県町村会・同議会議長会職員一同10,000円▶香川県消防協会10,000円▶香川各市町村職員共済組合職員一同30,000円▶香川県高等学校職員一同1,111,564円▶香教委事務局小豆出張所所員一同10,000円▶香川県教職員組合35,000円▶香川県国保団体連合会職員一同20,000円▶香川県医師会200,000円▶香川県歯科医師会小豆支部10,000円▶香川県婦人団体連絡協議会120,260円▶財団法人香川県母子福祉連合会30,000円▶香川県母親大会実行委員会10,750円▶香川県隣保館連絡協議会5,000円▶香川県モーターボート競走会200,000円▶香川県仏教会140,000円▶同満濃部会11,300円▶香川県宅地建物取引業協会500,000円▶香川県屋外広告術協同組合5,000円▶香川県建設労働組合土庄池田小豆支部50,000円▶同小豆郡支部50,000円▶香川県総評300,000円▶同議長10,000円▶香川県剣道連盟有志一同35,000円▶香川県スポーツ航空グループ一同10,000円▶香川県獵友会小豆支部20,000円▶社団法人香川県建設業協会100,000円▶香川県自動車学校職員一同30,000円▶香川町議会議員一同14,000円▶香川日産自動車部50,920円▶香川トヨタ自動車KK12,500円▶香川トヨベット自動車KK12,500円▶香川松本薬品KK50,000円▶KK香川相互銀行300,000円▶解放同盟香川県連100,000円▶海上自衛隊YAS104 船長外 25名2,600円▶観音寺市役所課長会10,000円▶同環境衛生課3,000円▶観音寺日赤奉仕団10,000円▶観音寺魚商組合婦人部10,000円▶カリタスジャパン代表カトリック中央協議会(東京都)500,000円▶カトリック小豆島内海協会10,000円▶カトリック桜町教会50,000円▶上之町若草会老人クラブ(高松市)10,000円▶川東団地一同(高松市)5,013円▶関西山岳会関西クライマークラブ有志(豊中市)20,000円▶観海楼・ニュー観海従業員一同30,000円▶川口建築設計事務所(土庄町)50,000円▶加登屋製油KK従業員一同(土庄町)20,000円▶KK神懸タクシー50,000円▶寒霞溪道路管理事務所職員一同10,000円▶学研三年の学習編集部一同(東京都)5,000円▶川北四十二100,000円▶金子忠子(高松市)50,000円▶京都御宝仁和寺250,000円▶京都外大音楽部・大部青年団・タカラ洋裁有志52,254円▶木ノ芽会(泉大津市)40,300円▶衆議院議員木村武千代100,000円▶木下勝(苗羽)100,000円▶宮内庁御下賜金50,000円▶久保田鉄工KK高松営業所30,000円▶草壁商店会50,000円▶呉労災木原直人外8名4,885円▶黒田好子(高松市)1,000円▶高野山安養院300,000円▶同三宝院150,000円▶同金剛峰寺200,000円▶光西寺外一同(大川郡西部仏教会)64,500円▶金光教(岡山県)30,000円▶琴平町30,000円▶同議会議員一同30,000円▶同役場職員一同55,000円▶琴南町30,000円▶同議会議員一同20,000円▶香南町議会議員一同10,000円▶国分寺町婦人会一同100,000円▶国民宿舎小豆島4,664円▶向進舎印刷従業員一同10,000円▶小谷進(岡山市)1,000円▶坂出市30,000円▶同議会議長5,000円▶同部課長会10,000円▶同消防団10,000円▶同職員有志一同88,000円▶坂手婦人会10,000円▶坂手消防分団員一同10,000円▶佐伯建設工業KK100,000円▶讃岐薬品KK

10,000円▶讃岐かん詰KK本社・善通寺・三野工場36,383円▶佐野川谷巖(大阪市)50,000円▶佐野安商事KK(大阪市)50,000円▶賛友クラブ(綾上町)4,500円▶佐々木建設設計事務所(高松市)50,000円▶佐々木正夫(琴平町)2,000円▶佐竹幸吉(高松市)20,000円▶坂下佳延(苗羽)50,000円▶讃文社永田敏之(高松市)5,000円▶KK佐伯建設四国支店500,000円▶四国新聞社500,000円▶四国新聞社西日本放送募金分6,527,427円▶四国ブロック勤労青少年ホーム館長一同7,000円▶第15回四国地区同和教育研究会138,739円▶四国建物管理KK職員有志一同(高松市)3,900円▶小豆郡医師会100,000円▶小豆地区消防組合職員一同30,000円▶小豆郡保育研究会保母一同33,000円▶同保育者一同42,000円▶同保護者会7,070円▶小豆郡タタミ組合100,000円▶小豆郡西部和裁組合30,000円▶小豆島高校生徒会20,400円▶小豆島料理学園一同10,000円▶小豆島青年会議所154,250円▶小豆島民謡同好会10,000円▶小豆島災害を救援する会86,513円▶小豆島総合開発KK100,000円▶小豆島自動車KK100,000円▶小豆島ボール従業員一同10,000円▶小豆島霊場会10,000円▶同講習会受講生一同108,687円▶同播州地区先達会(竜野市)35,050円▶浄土真宗本願寺派小豆島寺院会(浄宗寺・光現寺・松樹寺・長楽寺・真光寺)50,000円▶真光寺10,000円▶真言宗湯谷山最明寺10,000円▶下畑大師堂(岸和田市)50,000円▶小豆島老人ホーム(関吉平・山本誠徳)10,000円▶同女子職員一同11,000円▶同(西口勘市)50,000円▶(三好)10,000円▶新日本婦人の会小豆支部5,000円▶自民党香川県支部連合会379,015▶自治労香川県本部30,000円▶塩江町議会議員一同16,000円▶志度婦人会130,000円▶上戸学園高校(高瀬町)24,720円▶繁藤山くずれ遺族会(高知県)38,000円▶十方工業KK(大阪市)50,000▶城陽観光KK10,000円▶住友生命高松支社職員一同50,000円▶住吉学園高校(大阪市)3,356円▶須崎市農協園芸部旅行団(高知県)10,000円▶炭山南木200,000円▶スナックカジノ30,000円▶全国町村会10,000円▶全日本労働総同盟青婦部37,500円▶同香川地方同盟219,707円▶全法務労組高松支店30,000円▶善通寺市職員一同32,800円▶善通寺(香川県)200,000円▶聖イエス高松教会員一同26,500円▶同兵庫県教会員一同10,000円▶聖マルチン病院(坂出市)41,972円▶聖マルチンの家・特老ホーム聖マルチンの園(坂出市)20,000円▶高松高校定時制職員・生徒一同8,000円▶高松町東津自治会2,500円▶高松市ライオン通商店街振興組合50,000円▶高松鮮魚商組合59,430円▶高松中央農業後継者クラブ2,600円▶高松国際ホテルボール・同分室一同20,000円▶高信金庫信ちゃんクラブ5,000円▶高松三越労組婦人部13,419円▶多度津町30,000円▶同議会議員一同26,000円▶同職員一同80,000円▶同J O B C ポートボール90,500円▶第一生命保険相互会社100,000円▶田川石材工業所(土庄町)30,000円▶大和ハウス工業KK四国支社有志一同16,280円▶大金製作所労組(大阪市)21,258円▶大成電業KK(大阪市)20,000円▶玉置猛夫200,000円▶谷本弘和(東京都)10,000円▶武田喜美子(多度津町)1,000円▶鷹尾政一(坂出市)10,000円▶高田登(三本松高校長)10,000円▶高橋歯科医院30,000円▶高橋隆次30,000円▶高橋担(高松市)50,000円▶高橋タケ(所沢市)2,000円▶高橋麿治郎(長野市)3,000円▶仲南町30,000円▶津山市河辺園芸組合一同5,000円▶天理教香川教区信者一同1,000,000円▶鉄労四国地方本部青婦会議121,097円▶東京小豆島会200,000円▶土庄町100,000円▶同議会議員一同150,000円▶同職員組合30,000円▶同婦人会500,000円▶同婦人会土庄支部100,000円▶同婦人会豊島連絡会200,000円▶同赤穂屋婦人会10,000円▶同民生委員協議会一同20,000円▶同社会福祉協議会一同30,000円▶同老

人クラブ連合会20,000円▶同四海地区老人会連合会33,500円▶小瀬自治会 137,800円▶同柳自治会65,100円▶同大木戸自治会100,000円▶同大谷自治会15,600円▶同寺東自治会8,900円▶同鹿島自治会94,300円▶同保土喜崎自治会10,000円▶同渕崎・新橋納税組合 30,000円▶同千軒部落76,500円▶同肥土山向組部落一同15,000円▶土庄渕崎商店会50,000円▶土庄電報電話局職員一同20,000円▶土庄税務署職員一同20,000円▶東部地区労10,000円▶東讃漁協職員協議会10,000円▶宇佐漁協一同10,000円▶濤洋荘従業員一同11,500円▶東洋紡不動産KK(大阪市)500,000円▶KKトーメン(大阪市)1,000,000円▶東栄商事KK(倉敷市)10,000円▶トヨタカローラ香川12,500円▶トヨタオート香川12,500円▶長尾町10,000円▶同役場職員一同31,318円▶同住民一同 544,401円▶直島町議会17,000円▶中原自治会(高松市)13,800円▶成田知己20,000円▶日本赤十字社香川県支部7,866,521円▶西日本放送500,000円▶日本社会党香川県本部10,000円▶日本通運KK100,000円▶日本浄化槽KK(高松市)30,000円▶日産サニー高知販売KK社員協議会42,448円▶西宮市教育委員有志一同20,000円▶西村利雄(佐賀県)10,000円▶野村憲一(岡山市)10,000円▶能勢常寛(倉敷市)2,000円▶林田港子供会(坂出市)9,555円▶KK長谷川松寿堂木の実会(京都市)57,000円▶馬場久孝・キミ子(岐阜県)2,000円▶播磨義久(大阪市)20,000円▶KK百十四銀行500,000円▶百十四銀行小さな親切運動・百十四会会員有志一同541,600円▶百十四銀行健保組合職員有志一同 1,300円▶KK百十四ビル有志職員一同3,000円▶肥土山夜念仏連中 10,000円▶平野金属同盟青婦部・藤原学園22,680円▶日生下産業KK四国出張所(高松市)20,000円▶日野純博1,000円▶扶桑教岡山教会婦人会 15,000円▶ふじや洋品店(岡山市)50,000円▶ブラザーミシン販売KK小豆島営業所30,000円▶フレンドファーム(香川町)5,500円▶藤本孝雄後援会100,000円▶藤間美代子(高松市)5,000円▶藤森幸男(新宮市)5,000円▶別府市観光土産品協会20,000円▶星電器製造KK(大阪府)97,067円▶満濃町30,000円▶同議会議員一同20,000円▶特老ホームマリアの園56,000円▶KKマルヨシセンター社員一同(高松市)50,000円▶マルシマ印刷KK20,000円▶マルシン商事KK(高松市)30,000円▶前川忠夫20,000円▶松本婦美子(福田)50,000円▶三木町30,000円▶三木支部長5,000円▶民社党香川県支部連合会20,000円▶三越300,000円▶民宿つるみ10,000円▶三谷登紀子(千葉市)5,000円▶三木隆(高松市)10,000円▶三宅一夫(古江)10,000円▶明治生命相互会社高松支社500,000円▶牟礼町議会議員一同22,000円▶森川正雄(草壁本町)50,000円▶山本興業KK四国支店100,000円▶山西勤次郎(土庄)1,000円▶山田征三郎(牟礼町)10,000円▶山脇利一(土庄町)10,000円▶山本正六(土庄町)10,000円▶山本栄一(坂手)10,000円▶山口明子(橘)100,000円▶山口武利(神奈川県)10,000円▶日本ユースホステル協会69,725円▶小豆島オーリーブユースホステル6,266円▶ユースホステル全国大会伊勢志摩大会参加者有志15,150円▶(有)ユーカリコンサルタント(高松市)10,000円▶有志会(高松市)5,500円▶吉田良隆(大阪市)10,000円▶吉岡竹蔵(土庄町)1,000円▶ライオンズクラブ国際協会302 V複合地区ガバナー協議会200,000円▶ライオンズクラブ302V-D地区1,500,000円▶同D地区4R(県内ライオンズ)566,800円▶小豆島東ライオンズクラブ206,800円▶坂出ライオンズ50,000円▶志度ライオンズ76,400円▶小豆島ライオンズ100,000円▶綾南町議会20,000円▶同職員組合20,000円▶(有)連合設計社市谷建築事務所100,000円▶小豆島ロータリークラブ600,000円▶県内ロータリー819,000円▶今治ロータリー66,000円▶今治南ロータリー51,000円▶伊予三島ロ

一タリ-24,500円▶新居浜ロータリー-60,000円▶新居浜南ロータリー-33,000円▶西条ロータリー-50,000円▶川之江ロータリー-21,500円▶八幡浜ロータリー-39,000円▶宇和島ロータリー-37,000円▶大洲ロータリー-27,000円▶高知ロータリー-40,000円▶高知東ロータリー-25,000円▶高知南ロータリー-30,000円▶高知西ロータリー-24,000円▶中村ロータリー-25,000円▶中村南ロータリー-37,000円▶安芸ロータリー-30,000円▶宿毛ロータリー-43,000円▶中芸ロータリー-19,000円▶小松島南ロータリー-20,000円▶徳島南ロータリー-25,000円▶徳島東ロータリー-50,000円▶鴨島ロータリー-20,000円▶鳴門ロータリー-30,000円▶北条ロータリー-38,000円▶徳島ロータリー-50,000円▶脇町ロータリー-20,000円▶小松島ロータリー-20,000円▶阿南ロータリー-25,000円▶若葉会(高松市)7,500円▶渡辺磯吉(財田町)5,000円▶匿名(5件)108,200円▶土庄町瀨崎自治会113,100円



(見舞金を受けとる町長)

(学校・幼稚園関係)

▶綾歌郡幼稚園7,000円▶池田町池田中生徒会28,081円▶池田小児童会29,658円▶二生幼小PTA27,400円▶二生小児童会6,615円▶蒲生小PTA24,500円▶三都小児童会11,550円▶三都小PTA57,800円▶中山児童会6,926円▶宇多津町宇多津小職員児童21,791円▶鴉川潔5,000円▶大川郡幼稚園長会10,400円▶大野原中職員生徒27,137円▶香川県小学校長会10,000円▶県中学校長会10,000円▶県教師会60,000円▶県小学校社会教育研究会10,000円▶県小道德研究会10,000円▶県公民館連絡協議会5,000円▶香川大附属高松小8,712円▶同附属坂出小職員児童31,662円▶香川町浅野小17,083円▶同大野小職員・児童10,301円▶観音寺市観音寺中職員児童26,237円▶同中部中51,751円▶同伊吹中6,570円▶琴平町琴平中職員生徒30,000円▶同象郷小10,000円▶榎井小5,260円▶同琴平小児童会15,749円▶琴南町西小職員児童10,417円▶香南町香南小児童会11,500円▶坂出市坂出中職員生徒32,000円▶同川津中7,600円▶同瀬居中4,749円▶同櫃石中3,137円▶同与島中2,000円▶同沙弥小中4,500円▶同加茂小20,000円▶同中央小27,436円▶同西部小8,400円▶同東部小27,692円▶同王越小5,000円▶同林田小3,275円▶同瀬居小5,770円▶同松山小22,603円▶同金山小12,000円▶櫃石小幼2,000円▶同林田小職員4,230円▶同府中小職員32,500円▶同林田小児童14,239円▶同幼稚園教育研究会7,300円▶財田町和光中生徒職員15,336円▶小豆郡教師会69,000円▶郡社会教育振興会20,000円▶塩江町塩江小3,575円▶同上西小1,000円▶同白鳥町五名小児童会4,500円▶鈴木楽器30,000円▶善通寺市東中職員生徒35,161円▶同西中25,000円▶同幼・小・中39,000円▶同東部小14,011円▶同竜川小15,910円▶同吉原小17,000円▶同中央小34,408円▶筆岡小10,180円▶同西部小児童会9,045円▶高松市中学校長会18,000円▶同小学校長会35,000円▶同桜町中19,387円▶同山田中生徒会35,700円▶同築地小職員児童7,100円▶同植田小10,550円▶同香西小13,730円▶同川島小42,803円▶同弦田小510円▶弦田幼5,480円▶一宮小8,303円▶同林小

香西小13,730円▶同川島小42,803円▶同弦田小510円▶弦田幼5,480円▶一宮小8,303円▶同林小37,620円▶同新塩屋小8,000円▶同多肥小11,664円▶同円座小6,536円▶弦打小28,000円▶同四番丁小61,412円▶同仏生山小15,715円▶同松島小16,025円▶同屋島小21,437円▶栗林小120,538円▶同木太小21,000円▶同花園小29,942円▶同前田小17,339円▶同十河小3,150円▶同二番丁小36,007円▶同下笠居小7,500円▶同古高松小15,240円▶同女木小3,825円▶同日新小9,000円▶同鶴尾小68,183円▶同鬼無小10,000円▶同三溪小2,500円▶同亀阜小87,474円▶同亀阜児童会6,000円▶同檀紙小22,109円▶同太田小13,837円▶同松島小P T A 68,032円▶同幼稚園教育研究会43,756円▶詫間町詫間中職員9,500円▶同粟島中職員生徒3,200円▶高瀬町高瀬中職員生徒29,613円▶多度津町多度津中職員生徒35,000円▶同多度津小職員児童園児11,450円▶同高見中1,700円▶同高見小1,300円▶同佐柳中1,250円▶同佐柳小1,275円▶同白方小6,000円▶仲南町仲南東小4,500円▶同仲南西小11,000円▶同仲南北小3,750円▶同仲南中14,000円▶土庄町幼稚園P T A 連絡会105,000円▶同幼稚園職員20,000円▶土庄中職員生徒71,250円▶大部中生徒会3,803円▶瀏崎小児童会31,391円▶大部小児童会13,020円▶大鐸小児童会15,735円▶戸形小児童会7,500円▶四海小児童会22,770円▶土庄小児童会20,885円▶戸形小職員児童3,000円▶豊浜町豊浜中職員生徒27,302円▶豊中町豊中中職員生徒18,041円▶津田町津田小職員児童7,892円▶直島町直島小児童会12,440円▶仁尾町仁尾中職員生徒12,987円▶飯山町飯山南小職員児童5,315円▶九亀市中学校長会6,000円▶同小学校長会13,000円▶同垂見小職員児童4,000円▶同広島小児童会5,503円▶満濃町高篠小職員児童10,000円▶同吉野小3,600円▶同神野小児童会5,530円▶同長炭小14,500円▶同四条小・幼12,000円▶三豊観音寺地区幼・小職員児童(78校)434,923円▶三野町三野津中職員生徒24,359円▶山本町三豊中職員生徒27,401円

(上記は町災害対策本部受付分のみですので、本部を通さず現地に届けられたもの等については記載もれがあるかも知れませんが、ご了承下さい)

被害の状況

1. 人的被害

死者	29人
重傷者	18人
軽傷者	23人（災害関連負傷者5名含む）

2. 建物被害

全壊	57戸
半壊	71戸
床上浸水	1,081戸
床下浸水	855戸
非住家全壊	42棟
〃半壊	37棟

3. 土木被害

（金額単位 千円）

区分	種別	道路	橋りょう	河川	砂防	計
		箇所	22	14	54	
内海町	金額	50,151	26,397	375,954		452,502
	箇所	127	4	32	2	165
香川県	金額	242,528	9,177	145,787	8,479	405,971
	箇所	149	18	86	2	255
計	金額	292,679	35,574	521,741	8,479	858,473

4. 農林被害

（金額単位 千円）

冠水				埋没流失				被害金額			
ha	ha	ha	ha	農地及び農業用施設		農林・畜産物	林業	養蚕園芸畜産施設		計	
15		6	3	904,290		37,489	448,628	6,792	1,397,199		

5. 商工水産被害

(金額単位 千円)

種別 箇所 金額	水 産		商工業	観 光	計
	水産一般	漁 港	設備・商品 材 料	星ヶ城園地 崩 壊	
箇 所	67	10	384	9	470
金 額	56,985	55,744	1,390,251	1,690	1,504,670

6. 環境保健被害

(金額単位 千円)

水 道			廃 棄 物			被害金額計
種別 箇所 金額	上水道	簡易水道	種別 量 金額	し 尿	ご み	
箇 所	1	6	量	780 ^{kg}	700 ^t	30,279
金 額	21,970	6,560	金 額	1,449	300	

7. 文教施設被害

(金額単位 千円)

種 別 箇所・金額	建 物	土 地	計
箇 所	2	3	5
金 額	843	10,922	11,765

被 害 総 額

内 海 町	3,396,415 千円
香 川 県 (土木被害)	405,971 千円
電々公社 (電信施設)	33,750 千円
中国電力 (配電路線)	7,748 千円
合 計	3,843,884 千円

応 急 対 策

1. 堆積土砂、ゴミ排除作業

被災の報道とともに県内外よりかけつけた奉仕活動の人々も加わり、全町をあげて必死に復旧作業を開始した。

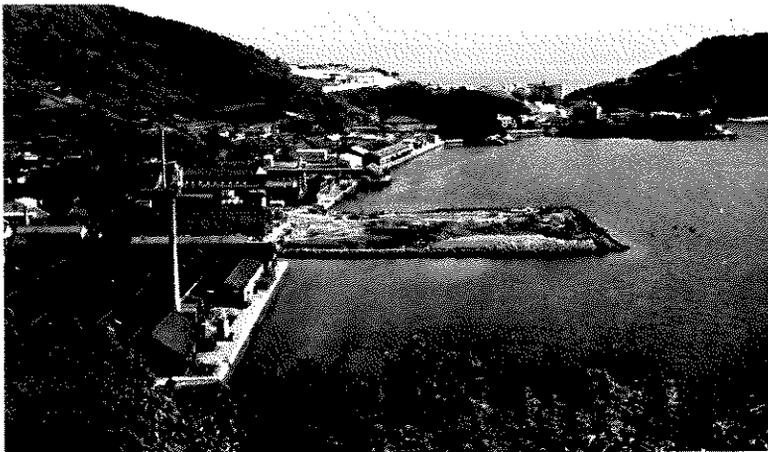
倒壊、浸水家庭より排出されたゴミ、ヘドロは約3万トンと、町の平常の収集量の3年分にも及んだ。一方、市街地に堆積された土砂は約17,800㎡に達し、これらのゴミ、堆積土砂とともに、災害復旧工事により排出される土砂約175,000㎡の対策として、苗羽地区(15,146㎡)と草壁地区(6,026㎡)の2ヶ所で埋立が着工されており、苗羽地区は主として地場産業の工場用地や公共用地に、草壁地区は海岸緑地として計画されている。

投入された機械力及作業延人員
($\frac{3}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$)

機 械 力		作業延人員
種 類	台 数	
ユ ン ボ	167	約5,000人 内奉仕活動 2,400人
シ ョ ベ ル	185	
ブルドーザー	83	
ダンプトラック	656	
散 水 車	25	
コンプレッサー	8	
チェーンソー	8	
クレーン車	1	
合 計	1,133	



道路上に排出されたゴミの山 (植松住宅街)



苗羽地区海岸の埋立
(50年5月)

2. し尿収集、防疫対策

災害後の最も火急とされる保健活動として、ゴミ処理とともに、し尿収集、防疫活動も浸水地区全域にわたり実施された。

し尿収集については、土庄町及び高松市清掃連合会の協力により、7月17日までにバキューム車延67台、作業延人員191名によって、収集処理することができた。

一方、防疫活動も、県農業改良普及所を始め、各団体の奉仕活動により動力噴霧機等機械類延72台、作業延人員254人により、消毒剤を散布及び各家庭へ配布し、井戸水についても各消防分団の協力により、浸水地区の井戸替え、消毒と、土庄保健所による飲料水の検査を実施した。

又、検病対策として、県、町保健婦による家庭訪問、日赤、県立中央病院、離島診療船「済生丸」等による診療活動が行われ、最も心配した伝染病患者が1名も発生しなかったことは、これら各団体の協力による防疫活動とともに、住民の保健に対する認識の高さを示したものであるといえる。

3. 給水活動

三五郎池の水道施設が損壊したため、坂手地区の全域を始め、上水道需要世帯の約半数が全面断水した。

簡易水道も6施設の全てが導配水管の破損により断水状態となった。

復旧については、県より技術者の応援を求める等、漸次導配水管の仮布設を急ぎ7月11日より全面通水することができたが、水源のにごりのため、浄化能力が極度に減退し、坂手地区を始め高台では7月17日まで断水が続き、多くの人々の奉仕による給水活動が行われた。



土砂でうずまった三五郎池

水道の復旧状況

月日	復旧状況	断水世帯()は需要世帯	給水車台数
7.7		(314) (940) (614) (923) 坂手314、苗羽380、安田390、草壁 80 (212) 西村 70。簡水(橋、岩谷、当浜、福田、吉田、原の全部450)	
8		同	上
9	上水道仮配管布設工事開始	坂手 314、苗羽 380、安田 350、草壁 50 西村 30 橋 140、福田 90、岩谷 50、吉田 70	30
10	〃 完了	同	上
11	上水道通水テスト 当浜、岩谷簡水復旧し、通水を行う。	坂手 314、苗羽 100、安田 100、草壁 20 西村 10 橋 140、福田 90、吉田 20	10
12	上水道、導水管に土石流入のため 午前中取り除き。 吉田簡水仮配管完了、通水を行う。	同	上
13	橋簡水導水管復旧するも配管布設困難 福田簡水仮配管に着手	同	上
14	浄水場施設の改良(16日まで)	坂手 314、苗羽 100、安田 100、草壁 5 西村 5 橋 140、福田 90	9
15	坂手地区通水テスト(本管修理)	坂手 314、苗羽 20、安田 20 橋 140、福田 90	13
16	福田簡水通水	坂手 200、苗羽 10、安田 10、橋 140	6
17	坂手地区支管修理	同	上
18 ↓ 22	橋簡水通水	橋 140	16 (計133)

皮肉にも水不足

小豆島始まって以来の記録的な集中豪雨に見舞われながら、今度は水不足に悩まされた上水道水源の三五郎池は山の一部分が崩れて、池の約半分が土砂でうずまり貯水量は平常の約半分となった。その上、日量約1500トンの送水を受けていた吉田川からの導水管が各所で寸断され、日夜懸命の復旧作業にもかかわらず導水不能の状態が続いた。一方頼みの内海ダムは7月末にほとんど底をつく状態となった。このため8月2日より給水時間10時～19時の制限を行い、更に8月7日より15時～19時の4時間給水となり、坂手地区には海上自衛艦により高松市から日量100トンの水を運ぶ等、厳しい給水制限が9月1日まで続いた。

4. 住宅対策

倒壊家庭に対し、国及び県により応急対策として下記のとおりプレハブ住宅を架設し、7月27日までに入居をすませた。

応急架設住宅建設状況

地区	戸数			建設場所
	プレハブ	旧学校改築	計	
安田	5		5	植松馬場の神社地
橘	28	4	32	旧小学校及集会場空地・民有地
岩谷	4	3	7	旧小学校空地
福田	7		7	民有地
計	36	7	51	



旧橘小学校運動場跡に建てられた応急住宅

5. 教育対策

安田小学校（7月8日～7月16日）

橘 地区……………教師2、3名により児童家庭を訪問、家庭学習を実施

岩谷地区……………地区公民館で出張授業

7月17日からスクールバス開通のため、平常授業となる。

福田小（中）学校（7月8日～7月20日）

当浜地区……………8日は徒歩により通学、9日から民間のマイクロバスにより通学

吉田地区……………個人の自家用車により送迎

内海中学校（7月8日～7月20日）

橘、岩谷地区…教師がそれぞれの地区へ出向き、家庭訪問による家庭学習を実施

16日より徒歩、自転車により一部登校する。

旭 幼稚園（橘地区）

裏山よりの土砂流入により、8日から16日まで休園

6. 町民相談室の開設

開設期間	7月19日～9月30日
専任職員	2名
相談件数	492件

(内訳)

融資(援護資金)関係	120件	町民税等の減免関係	15件
災害復旧関係	162件	移転その他土地関係	20件
復旧工事等による補償関係	50件	住宅貸付資金認定関係	125件

7. 災害援護資金の貸付

貸付承認件数	278件
貸付金額	71,440千円

8. 町民税等の減免

町民税	人員	1,312人	(調定額に対する比率20.8%)
	金額	11,186,350円	(" 9.8%)
国定資産税	人員	702人	(" 1.6%)
	金額	1,698,200円	(" 1.5%)
国民健康保険税	世帯	369世帯	(" 21.7%)
	金額	6,923,340円	(" 13.1%)
減免額合計	金額	19,807,890円	

9. 議会調査団の日程等

7月7日	知事現地調査のため来町
8日	臨時町議会開催 県議会土木委員会現地調査のため来町
9日	政府災害調査団来町 団長、国土庁政務次官山内一郎氏外10名
10日	臨時町議会開催。災害応急対策特別委員会設置 県議会災害対策特別委員会設置
13日	県議会災害対策特別委員会開催
15日	合同告別式に町議全員参列

- 18日 町議会災害応急対策特別委員会開催
県災害対策特別委員会現地調査のため来町
- 20日 衆議院災害対策特別委員会委員現地調査のため来町 団長 金丸徳重氏外17名
- 27日 県議会災害対策特別委員会開催
- 30日 臨時町議会開催
- 8月10日 参議員災害対策特別委員会委員現地調査のため来町
委員長 中村英男氏外6名
- 20日 町議会災害応急対策特別委員会開催
- 21日 県災害対策本部、現地本部解散
- 28日 町議会全員協議会開催 災害見舞金について
- 9月10日 激甚災害政令指定(49. 9. 10. 政令第324号)
- 12日 県議会災害対策特別委員会開催
- 27日 町議会災害応急対策特別委員会を解散し、災害対策特別委員会を設置



現地調査をする政府調査団一行

災 害 救 助 費

内 訳	金 額	摘 要
収容施設供与費	328,620	避難所9ヶ所、毛布、カーペット他
炊出し等食品給与費	2,579,802	
飲料水供給費	319,562	給水車借上料、燃料費他
被服等生活必需品給与費	18,690	
学用品の給与費	276,843	小学生104人、中学生66人
埋葬費	789,670	棺代、ドライアイス他
死体の搜索費	4,937,000	重機械借上料、船借上料
死体の処理費	266,840	検案料、毛布他
障害物の除去費	6,538,262	重機械借上料、燃料、人夫賃他
輸送費	218,840	
人夫賃	12,000	
町事務費	3,269,871	
合 計	19,556,000	

表彰状・感謝状

〔内海町長表彰状〕

内海町福田 村 本 定

〔内海町長感謝状〕

陸上自衛隊善通寺駐とん部隊	志 度 ライオンズクラブ
海上自衛隊呉地方総監部	坂 出 ライオンズクラブ
高松海上保安部	小豆島 ライオンズクラブ
坂手海上保安署	小豆島東 ライオンズクラブ
香川県警察機動隊	ライオンズクラブ国際協会 302 W 複合地区 ガバナー協議会事務局
内海警察署	ライオンズクラブ国際協会 302 W I D 地区 D D G
内海警察署橋 駐在所巡査 菺田恒二	ライオンズクラブ国際協会 302 W 地区ガバ ナー
内海警察署福田駐在所巡査 米谷 勲	観音寺市青年会議所
小豆島消防組合 小豆島消防署	小豆島 ロータリークラブ
阿南市消防団橋分団	国際ロータリークラブ 第367区
岡山市消防団妹尾第一分団	内海町草壁本町 長 楽 寺
池田町消防団	内海町苗羽 真 光 寺
土庄町消防団	内海町橋 丸本 マサコ
内海町消防団西村分団	株式会社 小松製作所
内海町消防団草壁分団	香川県建設業協会建築部会
内海町消防団安田分団	香川県建設労働組合
内海町消防団苗羽分団	高松市清掃業者連合会
内海町消防団坂手分団	東京小豆島会
内海町消防団福田分団	大阪小豆島会
橋 部 落	
岩 谷 部 落	
福田連合部 落	
安 田 部 落	
土庄町婦人会	
池田町婦人会	
内海町婦人会連絡協議会	

(順不同)

復旧工事の状況

1. 町関係事業実施状況

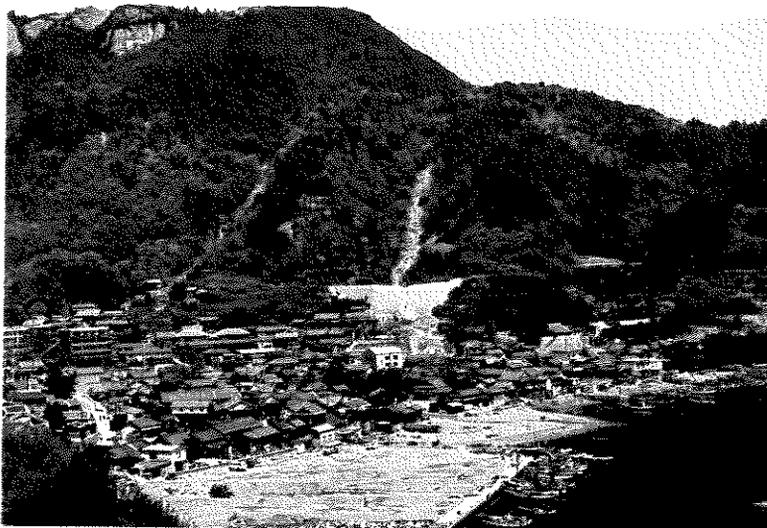
種 別	箇所数	査定額	49年度実施額	実施率	備 考	
公共土木	河川	箇所数(54) 48	(381,850) 242,250 千円	千円 90,897	% 37.5	河川のうち 査定額6箇所、 139,600千円は県へ 移管
	道路	25	50,151	23,441	46.7	
	橋梁	14	26,397	22,428	85.0	
	小計	87	318,798	136,766	42.9	
漁港施設	10	53,262	22,431	42.1		
農業災害	204	941,103	298,077	31.7		
都市災害排土		71,095	49,672	69.9	総事業費80,000千円	
合 計	301	1,384,258	506,946	36.6		

2. 県関係事業査定額

種 別	箇所数	査定額
河 川	38 箇所	285,387 千円
道 路	127	242,528
橋 梁	4	9,177
砂 防	2	8,479
合 計	171	545,571

3. 防災事業実施状況

種 別	箇所数	49年度実施額
砂 防	緊急砂防	7 箇所 224,070 千円
	通常 "	3 23,478
治 山	緊急治山	6 81,450
	復旧 "	2 29,050
合 計	18	358,048



完成した緊急砂防工事 | 橋地区 |

左は鉄筋五階建ての改良住宅と漁港改修工事が急ピッチで進められている

(50・4・19)

災害から教えられたもの

「災害は忘れた頃にやってくる」とか「備えあれば憂いなし」等いつも言われていることであるが、今回こそ普段の災害対策の重要性を痛感したことはない。

当日の午後からの雨の降りようは、ただごとではないように思われた。危険な所は早く避難していれば被害は最小限に食い止められたと思われるので、今後の避難対策の再検討と共に避難場所の周知徹底しておくべきである。災害のとき本部からの通達の届くときはまだよいが、通信、連絡の途絶しているときが多いので、各部落での自主避難態勢をもっておく必要があった。

小豆島の山は急傾斜で崩れやすい土質である。集中豪雨は山の上部から土石流となって下流を襲う。河川は土砂で埋まり、水は河川を氾らんさせて人や家、田畑に甚大な被害を与える。橘地区では急傾斜地崩壊防止工事を行っている所と行っていない所では被害がはっきりとわかれている。各所にある砂防堰堤は満杯でその効果を表わしているのを見ても、土砂の崩壊を防ぐための砂防施設の重要性を身をもって感じた。砂防と洪水の調節を兼ねそなえた、大型のダムの築造を急ぐべきであろう。河川についても川幅を広げ改良する必要がある所が多数あった。地質の調査と共に河川の改修を早急にやらねばならない。

通信も電気も途絶える恐れがあり、福田地区とは電話が早くから不通となり連絡の取りようもなかった。連絡用無線機の設置とアマチュア無線の愛好者等の調査と依頼しておくべきであった。

危険個所の調査書等は、警察、消防、部落等の関係機関にも配布しておくと共に雨量計を設置して、災害の判断の資料を提供しておくべきであろう。

災害が起り職員を現地に派遣して、部落の人と共に本部への連絡調整に当たったのであるが、人員等の関係でなかなか思うようにはいかなかった。被災者の不安を取り除かなければならないので、人員は増員すべきであった。

災害時には、普段には考えられないような流言が飛ぶことがある。何でもない言葉が一寸したきっかけで大騒ぎを起すこともある。それに対する早急な広報の必要性を感じた。

多数の報道関係者が取材のため来るので、取材の便となる資料を整えて、時間を決めて発表する必要があったと思った。そのための担当者を決めておくべきであろう。

今後の資料とするために正確な記録を残さなければならないので、早くから担当者を決めておくべきであった。

後を振り返って見て、災害が大きければ大きい程、教訓と反省は数かぎりなくあった。この災害を契機に災害に打勝つ強じんな内海町にせねばならない。

戦災を受けた所は、いち早く復興して繁栄をしているのである。

この災害に対し、全国の多数の人から、団体から心暖まる援助があった。多額の義援金が寄せられた。感謝と感激の心でいっぱいである。二度とあのような災害は繰り返してはならない。いま立ちあがらなければここまで築きあげた先輩達にも、援助して下さった人達や各機関の人々にも相済まぬ。

体験記

生き埋めがおるから来てくれ!!

〈小豆島消防署内海分署消防士長 高橋 忠博〉

7月6日21時、当日非番だった私は署より非常招集がかかり、気象情報と被害報告が入りまじる中、橘地区の悲報を受信したのは7日0時24分でした。即刻、救助車隊員9名編成による車隊長として、既に脛まで浸水した庁舎前を車高の高いダンプカーで出動するも橘峠上り口の古郷池附近で石と土砂にとざされ進行不能となりました。止むなく残り約5 kmの行程は徒歩により進行を決意し、遮えぎる倒木をくぐり崩土につかり、山中と様相を変えた県道を1時間30分苦闘し、小降りの雨の中で真暗な橘部落をやっと見分けることができたのは7日2時14分頃でした。「生き埋めがおるから来てくれ!!」との大声で最初に向った現場は、橘部落かかりのバス停北方の斜面に建つ住宅密集地でした。現場は上方より幅50mにわたり原型を止めず流失、全壊しており、附近一帯を漂うガスと汚物の激臭が鼻を突く急な斜面をヘルメットに装備したキャップライトに導びかれ、不明者が多くいると思われる上方を目指し駆け登りました。丁度中腹にさしかかったところ、50才位の男の人が一人で斜面を見つめぼそぼそとつぶやいている。私も、ふと足を止め斜面を見ると、土砂で棟まで埋もれ大破した民家の姿があり、その男の人も私に気づき「ちょっと前まで、あの家のところで子供がおらんどった。頭が見えよったがもう見えん」と、興奮するでもなく、ただうなだれ、つぶやくだけでした。私達が差ししかかった時には、この地点はまだ踏み込めない状態であり、目撃時からかなり経過していた為、生き埋め者のいる上方へと更に駆け進みました。この中腹では、3名の死者を出し、なかでも2才に未だない幼児の遺体発見場所となり、数多い惨事の中であの男の人のつぶやきが生々しく残っております。

ようやく私達が辿り着いた最高所の家は半壊し、この家の上方にあった数軒の民家の残骸の一部がもたれかかっていた。地元の人々が必死に救出作業を続ける家の合い間でうめき声を聞き、思わずキャップライトの光に入ったものは、土塊と化した被災者の姿でした。2畳位いの限られた場所に木と土砂に埋もれ2人の重傷者がおり、2人に重り合うように骨折し、流血した遺体がありました。私達は地元の人々と共に必死に救助作業を続けると共に無線で医師の要請をしました。下半身をはさまれ、泥まみれとなった2人の重傷者の頭を膝にのせ「しっかりせい! いたいかな、もうちょっとじゃ」と頭をなでながら力づける住民の姿、私達も更に力をこめ作業に努めました。救助作業当初は、ここでは重傷者を含め3名の被害者との情報のもとで作業を進めていたところ、続いて重なるようになった2名の遺体を発見、計死者3名、重傷者2名という犠牲者となりました。救助作業が難行し、私達が最後の遺体を収容し終えた時は、空も明るみかけ2時間余りを費いやしていました。次いで私達は息つく間もなく次の現場へと向いました。夜明けと共にうっすらと姿を現わした橘部落の全景は、拇指岳を中心に部落を取り囲む山々には、いたる所で無数のツメ跡が走り、崩れ落ちた民家が土砂の合い間に見え県道上まで大きくはみ出し、正に無惨な様相となっております。

2名の不明者がいるという橘漁業組合の西の現場で、早速スコップを手に土砂を掘り材木を取

り除く私達の耳に突然叫び声が入りました。作業を見守っていた主婦が「おばあちゃん、おばあちゃんが!!」と大声で私達の後上方を指さしました。振り向くと十数メートル上方で流砂により家跡も全ったくなく畑のようになった土砂の上に遺体となった老婆が横たわっていました。遺体は頭を南に上向きとなり、事後聞くとところによると長年病床に就いていた状態と変りなく、マットとフトンが敷かれたままの状態でも横たわっており、体には崩土もなく、不思議にも安らかにさえ見えました。

私達は遺体を近くの庵へ安置した後、地元で用意されたにぎり飯をつまみ、水びたしになったタバコを握りつぶし、半壊した商店の軒裏からやっと飲み物とタバコを購入し、7時間ぶりに咽をうるおしました。

小休息の後、引き続き先ほどの現場に戻り作業を開始しましたが、根がついたままの大木と土砂に埋もれた石に作業は難行をかさねました。しばらくして隊員の1人が水びたしの土砂の中から手指の一部を見つけ、早速発掘にかかりました。作業が進むにつれてやや横向きの遺体は徐々に全様を現わしましたが、木と石にはさまれた遺体を傷つけないよう気づかい素手での作業が主となり大変難行しました。すぐ横で変りはてた母親を待つ女子高生の手には真新しい毛布が用意され、取りみだすことのないこの姿があまりにもいたいたしくうつりました。

私達は7日10時すぎ消防署第2次救援隊到着と共に徹収し次の任務に移りました。

思えば一瞬の天災で一瞬の被害がおき、一瞬でない悲劇を見ました。私達消防署員は皆様と共に今一度考えざるを得ない課題に直面したことを身にしみて思われます。

災害のまっただ中で

〈橘公民館主事 庫本雄治〉

私の一生の中で忘れることのないまた思い出したくない出来事、それは7月6日のことだった。朝から強く降る雨は昼前になっても一向に止まず益々激しさを増すばかりであった。橘に来て間もない私は、その夜、よもやこのような大災害になろうとは思うすべもなく、いつもどおり勤務をしていたのである。ところが午後2時頃、数ヶ所でかけ崩れが起こり防護団も嚴重な警戒体制をしいた。夕方には、一時雨も少しおさまり、その夜私は岩谷で大切な会合があり出かけた。暗くなると、又雨が強く激しく降り出し、9時頃には停電になった。そこで会合は打ち切り後かたづけをして帰ろうと岩谷公民館を出ると、傘をさしているのに全身が濡れる程強い雨が降っていた。(その頃、すでに橘においては土砂崩れがあり、多くの死傷者が出ていたのである。)早く家に帰ろうと車で岩谷を少し出たその時である。雨の音を打ち消すかのように、ゴォーという山鳴りの音と共に水が山から噴き出してきた。一瞬、山津波だと直感した。幸にも最初の山津波だったのとガードレールがあったので海へ落とされずにそこはどうか通り抜けた。だが、この先どうなるのか、またどうなっているのかと思うと恐しくなり少しの時間車を止めていたが、何とかして橘まで行かなければ助からないと思い、ただひたすら車を飛ばした。途中、何ヶ所か小さ

な土砂崩れがあったようだがほとんど覚えていない。やっとのことで、橋の入口まで来て人影を見た時、はじめて助かったと思った。橋を少し入ると県道は脛くらいまで水が溢れてたくさんの人達が出て騒々しく動いていた。私の姿を見るなり男の人が「公民館を開けろ、公民館の西の方で土砂崩れがあり全員避難している」と大声で叫んだ。その時、初めて橋に災害が起っていることが分り、一目散に公民館へ駆け込んだ。時間は10時前だったと思うが、すでに20名程度の人達が来ていた。近所からローソクや毛布を借りてきたり、ストーブを燃やしたりして寒さを防ぐのに全力をあげた。そうしていると電話で「家に石が入って来て怖くて逃げられないので助けてほしい」という連絡があった。橋に来て、まだ間もない私は、地理に詳しくなかったが公民館のすぐ東の一番上の家だということで、一人懐中電灯を頼りに無中で坂を登って行った。入口で恐しさの余り立ちすくんでいた学生2人を連れ出して、ふと懐中電灯を隣りの家の方へ照らすと今まであった家は全くなく、大きな石があるだけでした。急いで2人を安全な家に連れて行き、その足で駐在所の前まで来た時、一人の女性が顔を真赤に血で染め、泥々の姿で茫然と立っていて、私を見ると突然「母が、この中に！」と絶叫し、石がゴロゴロ流れている濁流を指したがどうすることも出来ず、彼女を安全な場所へ連れて行くのがやっとならった。その間、降り続く雨は一向に止まず、不安と疲労が増す中、12時近くになって、町災害対策本部より「今、救援隊が橋に向った」と連絡が入った。この言葉を聞いた時の避難者の喜びの姿が今も脳裏に焼きついて離れない。ここで、初めて助かるのではないかと、ほっとすると共に救援隊の人達が早く無事に着くことを祈るだけであった。

その頃には、次々と死亡者、負傷者の名前が公民館に入ってきた。しばらくして「今、医者が海から橋へ向った」との連絡もあり、私たちは、ただ海からと山からの救援隊を待つばかりであった。いらいらしながら待っている間に雨もしばらくして小降りになると共に、避難者も少しは落ち着きを取り戻してきた。

やがて、山の中腹に懐中電灯の光が見えた時「助った！」と思いました。防護団をはじめ、消防団、警察の人達の夜も徹して、真暗やみの中での救出活動で多勢の生き埋めになっていた人達が助け出され、4時過ぎには医者も着き怪我人の診療が始まった。

悪夢の一夜が明け、炊き出しの準備に外へ出て、あたりを見回した時、あまりにも変わり果てた非惨な橋の姿に、驚くより、ただ茫然とするだけであった。周りが次第に明るくなるにつれて離れ離れになっていた家族や親戚の人達が無事を喜び合う姿とは対比的に死傷者や行方不明になっている家族の人達の姿は何ともいいようがなかった。午前9時前には自衛隊も着き、行方不明者の本格的な救出活動が、また、それと並行して負傷者を病院に運ぶための道路の整備に全力を注いだ。昼間は行方不明者の搜索や復旧作業、夜は12時、1時過ぎまで連日連夜、今後の復旧についての対策会議もたれた。私も災害当日より、ずっと泊り込みで、あちらこちらから応援に来てくれる救援隊の方々のお世話やお見舞いの応対などに追われていた。

毎日を忙がしく過ごしながらかんじたことは、こうやって困っている時に何をさしおいてもと言って救援に来て、必死で復旧作業の手助けをして頂いたり、遠く離れた地域からも救援物資を山のように送って頂いた各団体や個人の方々の心の暖かさに深い感銘を受けました。

災害後、少しでも雨が降れば、すぐ公民館に避難するという落ちつかない毎日であり、各家庭の中の片付けも当分の間、放ったらかしであったが、日が経つにつれてみるみる復旧作業もはかどり、元の生活のリズムに次第次第に戻ってきた。

あれから、数ヶ月、今ではあの悪夢が信じられない程、橘地区においては落ち着きを取り戻した。

炊き出し作業に従事して

〈内海町婦人会連絡協議会長 川野芳枝〉

7月6日の台風8号による水害で、内海町は未曾有の被害を受け、29名もの尊い生命が奪われました。そして、その上、全町断水という悪条件が重まりました。婦人会は、このような状態の中で罹災者や救援活動をしている方々への炊き出し作業を始めました。

6日の夜は、地元の坂手公民館でロウソクの火を灯しておにぎりを作りました。7日は参議員議員選挙の投票日でしたが、このような時に選挙なんかはと思いながらも、そこそこに投票を済ませ各地区の会長さん達と連絡をとり、丸金醤油の炊事場へ駆けつけました。ここでは、生まれて初めてという程の沢山の米を大きな桶に入れてかいのような棒で磨いては水を流してご飯を炊き、昼食と夕食のおにぎりを作りましたが、1日中休む暇もなく目の回るような忙がしさでした。その日は池田町からも婦人会の方が応援に来て下さいました。炊き出しを終えて自宅へ帰りましたが、本当はこれからが大変でした。

家へ帰ると町役場から連絡があり、8日からも毎日出てくれるようにとの依頼があり、また、各会長さん達へ連絡をとりました。8日は朝8時に家を出てバスで給食センターへ行きましたが、バスの窓から見える人達は、みんな疲れきった顔をしておりました。給食センターへ着くと、早朝から給食センターの人達も来て下さっていましたので炊き出しの準備にとりかかりましたが、何人分作ればよいのか、全然検討もつかないので昨日の丸金醤油での炊き出しを参考にしました。昼食を一応送り出して夕食の準備にかかりましたが、土庄町から大勢お手伝いに来て下さっていましたので、苗羽の会長さんと二人で橘の方へお見舞いに行くことにしました。途中、田畑が水につかり川のように流れていたり、通行止が数ヶ所あり回り道をしながら、どうにか橘まで行きました。橘に着いて、あまりのひどさに驚いてしまいました。家は流され、川の中には大きな岩が転がり大木が根を上にして水の中で喘いでいました。救援隊の人達が作業をしている中を通って幼稚園にたどり着くと、園庭では自衛隊の人達が昼休みで、そこ、ここでぐったりして休んでおられました。「ご苦労さまです」と言いながら、果物でも持って来て上げられたらよかったですと思いました。

園の中では、救援物資が早々と届いて、これから罹災者の家へ届けられるということでした。届けるまでに少し時間があるそうでしたので、お世話をなさっている方に「給食は如何ですか?」と尋ねてみましたところ「毎回、同じものより、何かおかずでもがほしいです」とお聞きして、なるほど無理もないことだと思われました。そこで橘地区のお見舞いを済ませて給食センターに

帰り、あちらこちらの商店へ電話をして聞いてみましたが、品物が水に流されたり、汚れたりして何もありませんでした。そのことを給食センターの係の方に相談したところ、玉葱、馬鈴薯、茄子等の在庫があるとのことでしたので、それらを使って、早速夕食にはおかずをつけることができました。そうこうしている内に、高松や岡山方面から、トラック何台分という野菜も救援物資として届き、また各商店でも食料品を販売するようになり、なんとか色々おかずを作り西瓜やバナナなどもつけられるようになりました。

10日頃には県生活改善普及員の先生方も応援に来て下さり、栄養、カロリーのある献立を作って頂き、人心地のつくような食事を振舞えることが出来るようになりました。

このような災害は、内海町ではかつてなかった事とでしたので、全国各地から暖かい救援の手が差しのべられ心のこもった沢山の物資や見舞金が町に届いたそうです。その後、7月20日で炊き出し作業も終り、それからは、山のように沢山町役場へ届いた救援物資の配達や被災家庭へのお手伝いなど会員の方々の働きは大変なものでした。

この度の災害で一番深く感じたことは、全国の皆様方をはじめ、島内の土庄、池田町の方々の暖かい助け合いの心の有難さということでした。また、町内では、何らかの形で被害を受けているにもかかわらず炊き出し作業に、その後の物資の配達等に真心をこめて奉仕して下さった方々の影の力を忘れてはならないと思います。

この災害で、私を含め、みなさん貴重な体験をしたと思いますが、このようなことは、もう二度とあってほしくないものです。

〔小学生の作文より〕

大 雨

〈安田小 2B おかだ あゆみ〉

7月6日は、朝から大雨でした。学校も早くおしまいにして、ぶらくごとに、かたまって帰りました。先生もつきそって帰りました。川の水がだんだんふえてきました。ばんには、川の水が道まできて、そのつぎは、家の中まではいって来だしました。電気もきえてしまいました。わたしたちは、水の流れる夜道をランドセルをせおって、学校の体いくかんにひなんしました。そこには、きんじょの人たちでいっぱいでした。電気もつかないので、まっくらでした。おとうさんは、きんじょの人たちと、びょう気の人や、にげおくれた人たちをたすけに行ったりしていました。しばらくして、2かいの音楽しつにかわりました。近所のおばさんが、ろうそくを立ててくれました。みんな心ばいそうな顔で、家のように、雨のようすを話していました。その時、わたしはふと、はじめて小学校になった入学しきの日に、お母さんといっしょに、にわにうえたオリーブの木のことを、思い出しました。だいぶ大きくなってたわたしのオリーブの木が、流れていないかと心ばいでたまりませんでした。やっと夜があけて、朝が来ました。わたしたちは、走って家に帰りました。にわにも、いえの中にも、どろどろの土でいっぱい、びっくりしてしま

いました。わたしは、すぐオリーブの木を見に行きました。オリーブの木は、先がすこし出て、流されてはいませんでしたが土や、ごみでうまっていました。わたしは、オリーブの木にいました。「かわいそうに、今なおしてあげるからね」すぐ、おとうさんにたのんで、ごみや、土をのけてもらいました。オリーブの木は、まがってどろだらけになっていました。わたしは、オリーブの木に水をかけてあげました。それから竹をもって来て、オリーブの木のよこに立てました。そして、ひもでオリーブと竹をくくってやりました。家の前の川は、はしがおちて、家のはしらや、太い山の本や竹が、石や、どろといっしょに流れて来て、家の高さぐらいにもなっていました。道もきれってました。わたしのへやは、どろだらけで、ドアは流されてありません。オルガンもつかえなくなっていました。それから、なん日も大ぜいの人が、てつだいに来てくれました。水も遠くからはこんでくれました。ほんとうに、こうずいはおそろしいと思いました。今でも、雨がふるたびに、それを思いだして、心ばいでたまりません。

台 風 8 号

〈安田小 5B 高橋俊司〉

7月6日夜。ぼくと、おばあちゃんは、横になってテレビを見ていました。すると親せきの家から、「おばあちゃん、水きとれへん。だいじょうぶ」と、電話がかかってきました。その時は、「へえ、だいじょうぶやで、水やか、きとれへんで」といって、電話をきりました。ちょうど電話をきってから、アパートの人が、「たたみを上げるから、つくえでもかしてください」といってきました。びっくりして、外をみると、庭が水でいっぱいです。そこへ、おかあちゃんが帰ってきました。「はようたたみ上げよう。つかってしまうで」と言いました。13年前にも、こんなことがあったけど、その時は、たたみに上がるか、上がらないか、どっちかだったそうです。水は、どんどんふえてきます。ていでんになりました。ぼくは、日本ちんぽつかと思いました。おかあちゃんが、「ひなんしょう」と言って、110番に電話をかけました。かからないので、119番にかけました。でも、かかりません。だから、3人が手をつないで、外へ出ました。でも、流れに、ながされそうなので、もっかい、家へもどりました。そして、どうぐぐらの中へ、はいることになりました。行く時、マッチもなくなり、ろうそくも消えてしまいました。手さぐりで、やっと2階にたどりつきました。おばあちゃんが、はこをつみかさねて、ねるところを作ってくれました。ぼくは、おばあちゃんに、「ここまでは、こんやろなあ」とききました。すると、おばあちゃんは、「わからんで、来たらおしまいやな。まどを、てつで、ふさいどるから、来たら、もういかんな」と、言いました。ぼくは、心ぼそくなりました。まどから、外を見ると、星みたいな物が見えました。おかあちゃんが、「今は、引きしおやから、だいじょうぶやろう」と、言いました。外を見ると、大きなドラムかんみたいな物が見えました。どこかの人が、何かを拾っていました。やがて朝が来ました。おかあちゃんが、「ちょっと見てくるな。まっちょきいよ」と言っておりに行きました。しばらくして、「おりてきてもえいで」とおかあちゃんの声がまし

た。ぼくと、おばあちゃんは、おりて行きました。外はまだまっくらでした。やっとマッチをさがして、ろうそくをつけました。ぼくは、ぬれていないところにマットをひいてねました。6時ごろ起きると、水は、だいぶひいていました。おばあちゃんのしりあいの、おっちゃんが、手つだってくれていました。だから、ぼくも手つだいました。ばばへ行くと、みゆきちゃんと、えいこちゃんがありました。どろの中を見ると、こいがいました。家へ帰る時、下を見ると、どろの中にいろいろな物がおちていました。ぼくは、ボールを3こ、ひらいました。帰ると、赤いものが見えました。それは、こいでした。そのこいを、バケツの中に入れました。親せきの人が、てつだいに来てくれました。ぼくも、てつだいをして、500円をもらいました。そして、10時から3時まで、ねました。あんなこわいことは、もうたくさんです。

土ようびのこと

〈苗羽小 1B もりやま えり〉

土ようびは、あめがたくさんふった。てんじょうの上から、あまもりがして、26も、しんぶんやせんめんきをおきました。わたしとねえさんがねているまに、おかあさんがあまもりを、タオルでふきまわりました。

ねているまに、水が、えんのところまではいってきたから、おかあさんが、わたしとおねえさんをおこしてくれました。それから、やおやの二かいへねにいきました。やおやの人が、ふとんを出してくれました。12じになっても、1じになっても、おきていました。

それから、ニュースをききました。「たいふう8ごうがやってきました。」といいました。おかあさんは「おとうちゃん、だいじょうぶやろうかな。」といいながら、ふとんを出しました。おねえさんは、ほとけさんに「ねさせてください。」といいました。

わたしは、こわかった。わたしのおうちのとなりの、けいこちゃんのうちも、そのよこのおばあさんも、みんな、やおやでねました。やおやの中も、みんな水だらけだから、しなものをつぎつぎはこんでいました。やおやのかいだんのはんぶんまで、水がきたから、おおかたで、わたしのねるところまでも、水がきそうでした。わたしは、ほんとうにこわかったです

~~~~~

## 洪 水 回 顧

〈福田部落連合会長 田原政勝〉

豪雨——氾濫——洪水 1974・7・6の初更

44年目の山鳴りが 大地を揺るがして 夕の団居を掻き消したとき 人々は  
怖れ 戦慄き 戸惑い 震えた

明け近い梅雨空の天井が抜けて 車輛も 家も 橋梁も 人間をも  
まる呑みにして 褐色のにおか水が 傾斜を 平地を 有無を問わずに  
闇夜を裂いて はしりぬけた。  
疾やる濁流が 暗い足元を洗い かざした懐中電燈の照点を  
上へ上へと突き上げる その異様な水嵩 凝視し 驚天したとき 灯は消えた  
若い消防士も 丁場職人も おばさんも 母子連れも 神主さんも  
方角のない漆黒の 逆巻きの中を 逃がれようとして じれったいほど  
スローモーションで いたましくも 運命の淵へと 踏み込んでしまった。  
水禍のはての亡骸に 涙瞳をおとして 遺族らは只ひたすら もはや呼び交いも  
かなわぬ肉親の いとしいその紫唇に 水をたむけて 慟哭する。  
耕地の畦も 河川敷も 路も 家敷も 一まとめにたたみこんで 洗い晒した。  
砂礫が 巨大な敷物のように ぶ厚く 白々と にくらしげに  
嘘のような太陽に 灼かれている。  
やがてそこに 傷心の腰をおとして 虚脱した罹災者が 失意の額をあつめ  
しづくだつ袖をしぼって 憔悴と 希望消せた 明日を思案する。

あの悪夢の日から四季は巡って早くも一周年を迎えようとしている。今この痛恨の災禍の後に  
行った時、吾々住民は色々な意味で尊い教訓を体得したように思う。

不慮の大事に直面したとき如何に大勢の力の結集が必要であったか、その連体感の大切さ、人  
間の善意の協力こそ禍を福に変え得る至上のものであるという貴重な体験であった。

吾々はここに改めて災害当時の部落の活動経過を想起してみることとする。

#### 1. 昭和49年7月7日「福田地区災害対策本部」を福田支所に設置

(部落役員、各団体役員により構成)

#### 2. 緊急措置対策協議と実行計画

- (1) 行方不明者の搜索(船舶、漁船及び罹災者以外の住民の動員)
- (2) 水、食料の補給(婦人会の炊き出し含む)
- (3) 各建設業者及び一般からの緊急作業に必要な重機器材の自主的応援の要請
- (4) 対外通信復活の促進
- (5) 寸断された道路線の応急措置
- (6) 被災家屋の処理と点検、被災度の掌握

道路通行不能という最悪の事態が内海地区との連絡、情報の収集を遅延させ事実上孤立状態と  
なっていた。何の指示も応援も来ないままの長い苦しい時間であった。

死亡者の検証や負傷者の応急手当など、医師の不在が住民を不安がらせた。これも通信機能マ  
ヒの故だったのだろうか、吾々は川のない河原で雨空を仰いで二次災害の恐怖におびえた。

陸上自衛隊、警察機動隊、消防団の救援活動を得て、ようやく吾々は愁眉を開いた。各地から  
温い心のこもった救援物資が続々と届けられた。吾々は早速被災家庭へこの有難い善意の品を分

配した。

町、県の復興計画は住民の積極的な理解と協力を得てほぼ初期の工程を消化して、災禍の爪跡を癒しつつ大方完成へ近づいている。

慌しかったこの一年を振り返って吾々は恐しい天災への認識を将来忘れることなく、年々さいさい「7月6日」という厄日を永久に脳裏に刻みこんでおかねばならない。そしてもう二度と繰り返さないよう防災の備えを固めてゆかねばなるまい。

## < 編集後記 >

- ……突如としてわが町を襲った台風8号による集中豪雨は、尊い29名もの生命を奪うという未曾有の大災害となり、美しい自然にはぐくまれ育った私たちに、自然のもつ反面の恐しさを、そして「備え」の必要性を身をもって体験させられました。
- ……年も新たまった昭和50年早々、私たちのこの貴重な体験を永く後世に伝え、災害防止の良き教訓として将来に生かすため「台風8号集中豪雨による災害の記録」の編集が起され、田中仁(企画課)、田川利男(総務課)、八代豊(教育委員会)が担当するところとなり、一周年に当る7月発刊を目標に取り組みを始めました。
- ……被災現場を歩いたり、記録、報道記事等を通して改めて当時の惨状が思いだされ、おもわず目がしらが熱くなることもあり、二度とこのような災害を繰り返すことのないよう祈りつつ編集を続けました。
- ……被災直後の7月7日は参議院議員選挙の投票日に当り、町は避けられない業務に直面し、また、当初は行方不明者の搜索と応急復旧に全力を集中したため、思うような写真や資料が得られず、その収集に時を費いやし、編集者の未熟さから不十分な点も多々あることをお許し下さい。
- ……この編集にあたってご協力下さいましたご遺族の方々、並びに貴重な資料を提供していただいた各位に厚くお礼申し上げます。

### 昭和49年7月台風8号による集中豪雨

## 災害の記録

印刷 昭和50年7月1日

発行 昭和50年7月6日

編集 内海町災害の記録編集委員会

発行 内海町

〒761-44 香川県小豆郡内海町安田甲144-90

印刷 有限会社 向進舎印刷所

〒761-41 香川県小豆郡土庄町甲6193の27